

男鹿市「住まい」に関する若者アンケート 報告書

令和 7 年 12 月

男 鹿 市

目 次

◆調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査の設計	1
4 回収結果	1
5 集計・分析に当たって.....	1

◆調査結果

I 回答者の属性	2
II あなたのお住いについて.....	4
問1 住宅の種類.....	4
問2 住宅の所有関係.....	6
問3 所有している車の台数.....	8
III あなたが住んでみたいと思う若者・子育て世帯向け住宅について.....	10
問4 住んでみたい「間取り」	10
問5 住んでみたい「住棟タイプ」	12
問6 住んでみたい「構造」	14
問7 「機能や整備等」の必要度	16
問8 「付帯設備等」の必要度.....	19
問9 必要な駐車場の規模.....	22
問10 住みたい地区.....	24
IV 男鹿市への定住に関するあなたの考え.....	26
問11 市内居住者の定住意向	26
問12 市外居住者の移住意向	29
問13 若者・子育て世帯向け住宅の利用意向	32
問14 定住を考える上で重要な要素	36
V 男鹿市の住宅施策について.....	39
問15 子育て世帯等住まいづくり応援事業の認知	39
子育て世帯等住まいづくり応援事業を知った媒体	41
問16 子育て世帯等住まいづくり応援事業の利用意向	43
利用したいと思わない理由	45
VI 若者・子育て世帯向け住宅に関するご意見・ご提案.....	46

◆調査の概要

1 調査の目的

若者・子育て世帯の定住環境の整備を図るため、市民や市外から働きに来ている若者や子育て世帯を対象に「住まい」に関する意識調査を実施しニーズを把握する。

2 調査の内容

- (1) はじめに・・・あなたご自身についてお聞きします。
- (2) あなたのお住いなどについてお聞きします。
- (3) あなたが住んでみたいと思う若者・子育て世帯向け住宅についてお聞きします。
- (4) 男鹿市への定住に関するあなたの考えをお聞きします。
- (5) 男鹿市の住宅施策についてお聞きします。
- (6) 若者・子育て世帯向け住宅に関するご意見・ご提案（自由記述式）

3 調査の設計

- (1) 調 査 対 象：1,200 名
 - ①住民基本台帳データを利用し18歳以上39歳以下の男女から無作為に抽出した市民800名
 - ②市外からの就労者400名
- (2) 調 査 手 法：郵送による調査票の配付、郵送またはWeb（インターネット）による回答
- (3) 調 査 期 間：令和7年10月3日(金)～10月24日(金)
- (4) 調 査 機 関：株式会社フィデア情報総研

4 回収結果

- (1) 調査票回収数：565人（回 収 率 47.1%）
- (2) 有効回答数： 561人（有効回答率 46.8%）

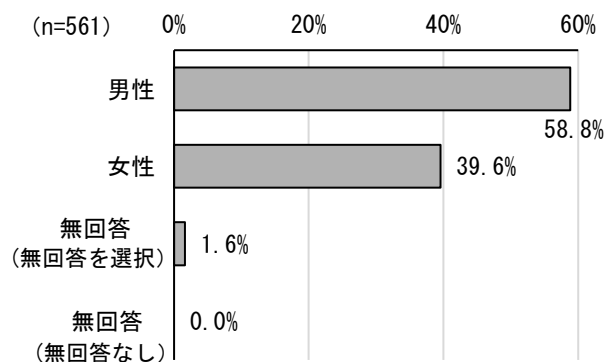
5 集計・分析に当たって

- (1) 比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が100%にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。
- (2) 報告文やグラフ内の文言は、可能な限り調査票原文の表現を用いたが、スペース等の関係から、一部省略した表現を用いている場合がある。
- (3) 性別、年齢、家族構成等の属性別に集計を行った項目については、区分によって回答数(n数)が少ない場合がある。これらの結果は統計的ばらつきが大きいいため、当該区分の集計結果を掲載していない、または参考としての掲載にとどめている場合がある。

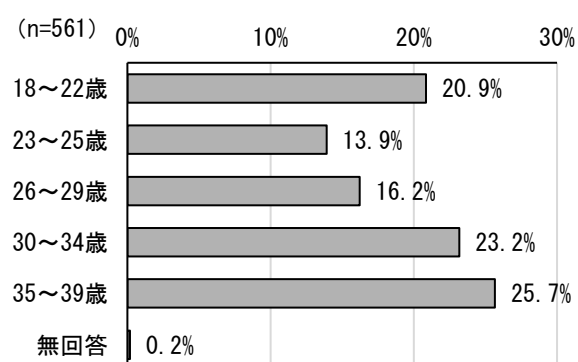
◆調査結果

I 回答者の属性

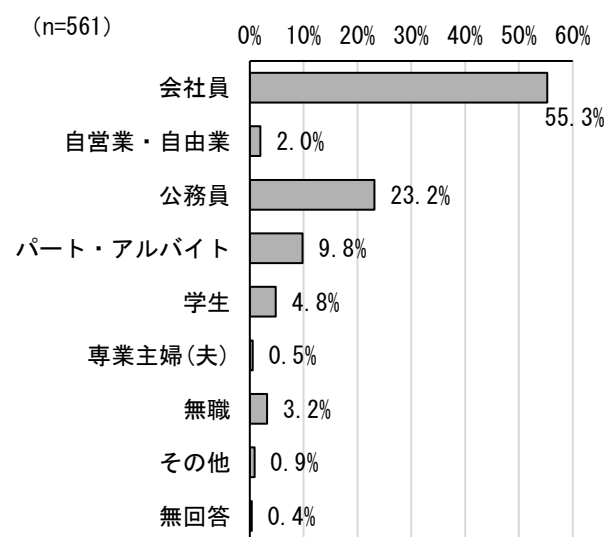
F1 性別



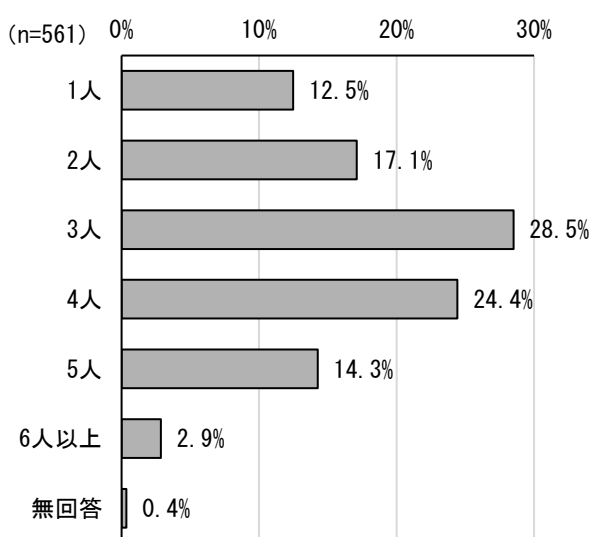
F2 年齢



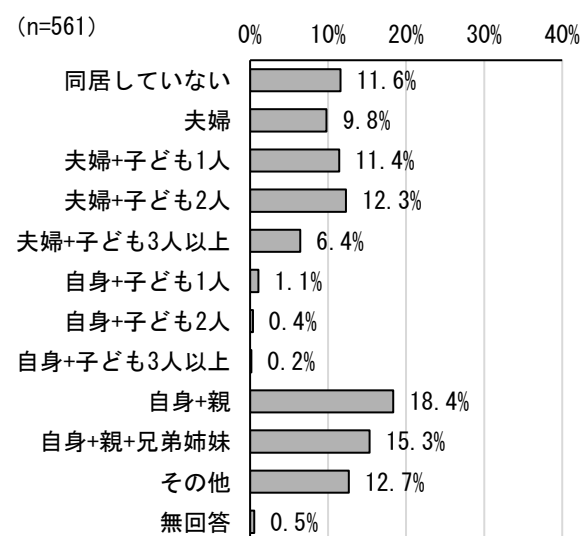
F3 職業



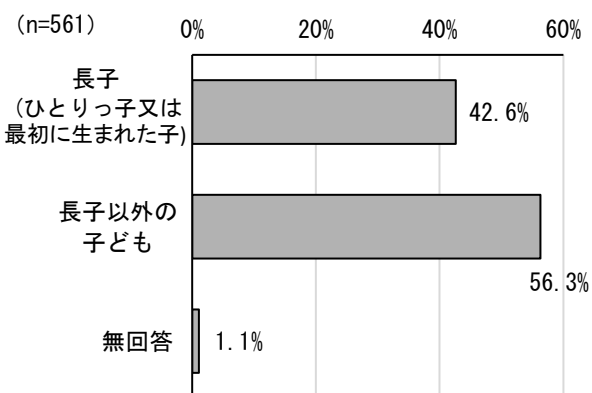
F4 同居している家族の人数（自身を含む）



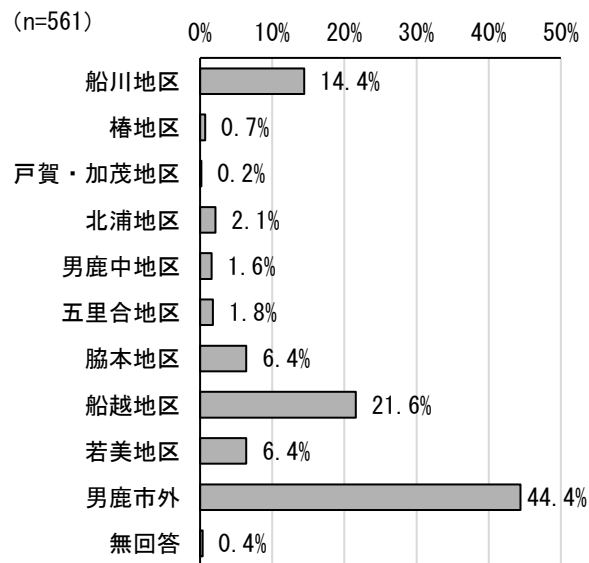
F5 同居している家族の構成



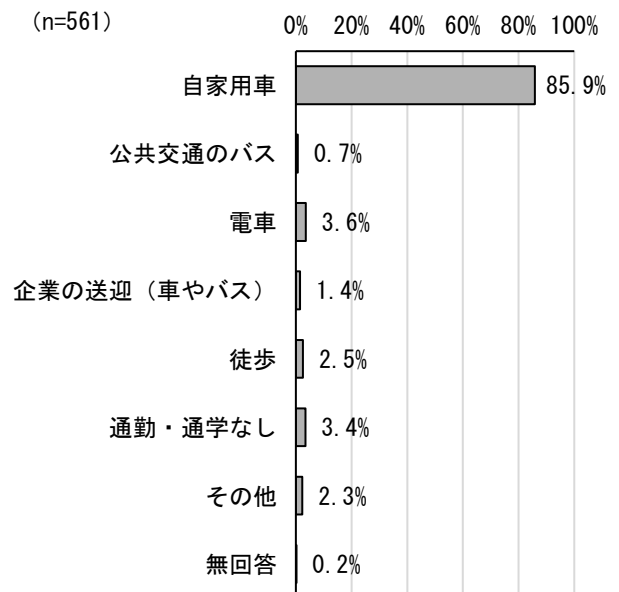
F6 自身の兄弟姉妹関係



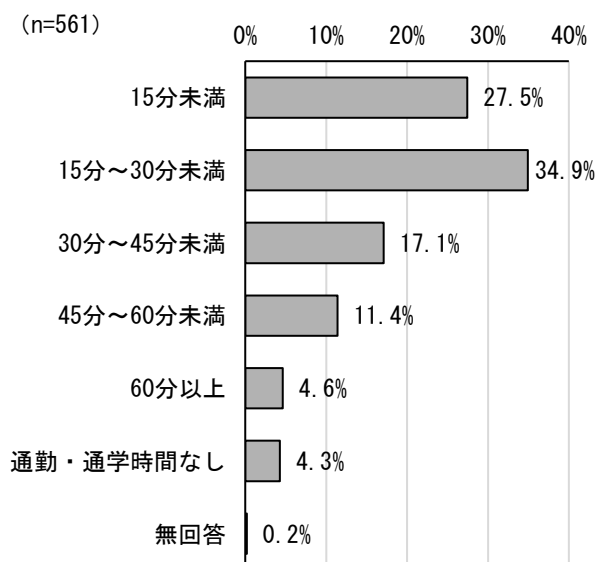
F7 お住いの地区



F8 職場・学校までの主な移動方法



F9 職場・学校までの移動時間



II あなたのお住まいなどについてお聞きます。

問1 お住まいの住宅の種類を教えてください。(○は一つ)

■戸建ての住宅

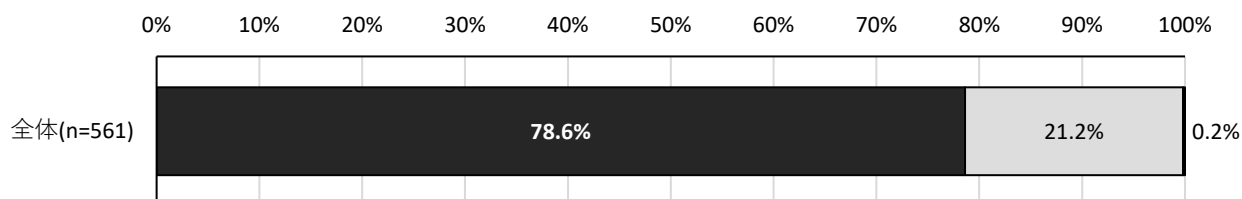
□共同（集合）住宅

□無回答

【全体】

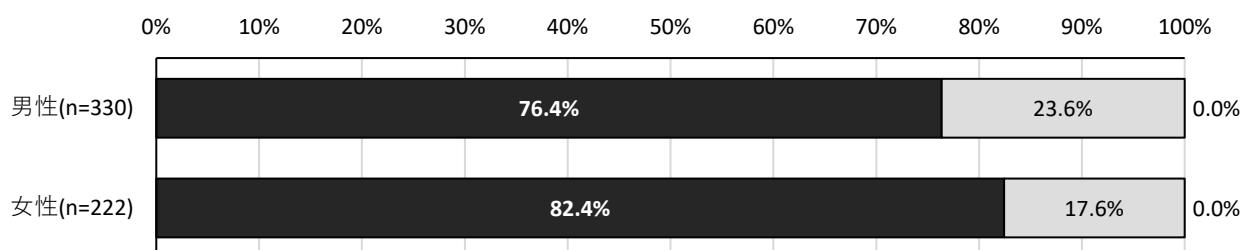
全体では、「戸建ての住宅」の割合は78.6%、「共同（集合）住宅」は21.2%となっている。

回答者の約8割が戸建て住宅に居住しており、18～39歳の若者層であっても戸建て居住が主流となっている。



【性別】

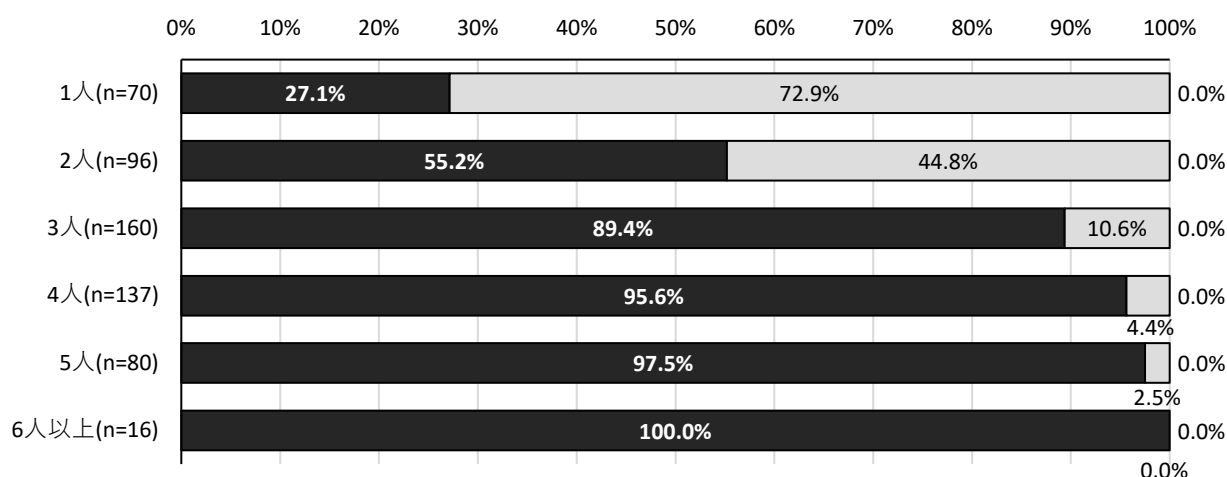
性別にみると、「戸建ての住宅」の割合は、男性では76.4%、女性では82.4%であり、男女ともに「戸建ての住宅」が「共同（集合）住宅」を上回っている。



【家族人数別】

家族人数別にみると、**1人**では「共同（集合）住宅」の割合が72.9%と高くなっている。一方、2人以上の世帯では、いずれも「戸建ての住宅」の割合のほうが高く、**2人**では55.2%、**3人**では89.4%、**4人**では95.6%、**5人**では97.5%、**6人以上**では全数（100.0%）が戸建て住宅となっている。

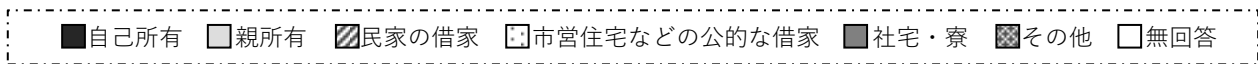
同居家族の人数が増えるほど、戸建て住宅の割合が高まる傾向がみられる。特に3人以上の世帯では戸建て住宅が大多数を占めており、居住空間の広さや生活上の使い勝手などを重視した住まいを選択する世帯が一定程度存在する可能性がある。



【家族構成別】

家族構成別にみると、同居していない（単身世帯）と夫婦のみの世帯では「共同（集合）住宅」の割合のほうが高い一方、夫婦と子どもがいる世帯や自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では「戸建ての住宅」が多数を占めている。

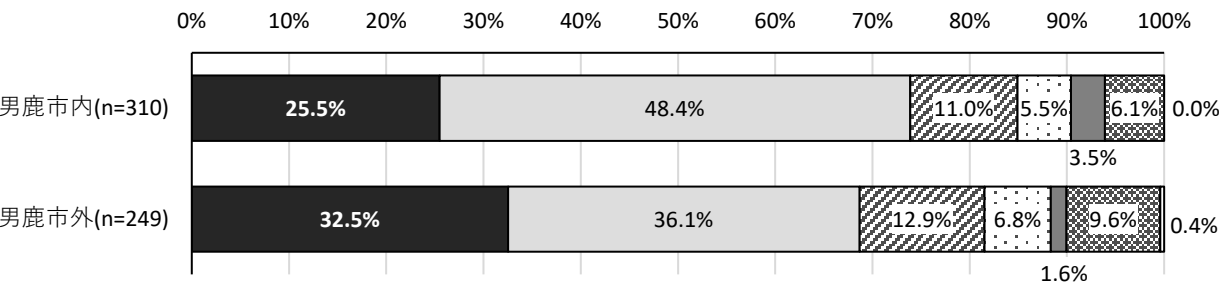
[家族構成別順位] 上位1位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	戸建ての住宅	共同（集合）住宅	無回答
全体(n=561)	78.6%	21.2%	0.2%
同居していない(n=65)	◆24.6%	★75.4%	0.0%
夫婦(n=55)	◆49.1%	★50.9%	0.0%
夫婦＋子ども1人(n=64)	79.7%	20.3%	0.0%
夫婦＋子ども2人(n=69)	★95.7%	◆4.3%	0.0%
夫婦＋子ども3人以上(n=36)	★100%	◆0.0%	0.0%
自身＋子ども1人以上(n=9)	55.6%	★44.4%	0.0%
自身＋親(n=103)	★89.3%	◆10.7%	0.0%
自身＋親＋兄弟姉妹(n=86)	★96.5%	◆3.5%	0.0%



【居住地区別】

居住地区別にみると、市内市外ともに「親所有」の割合が最も高く、次いで「自己所有」、「民家の借家」の順で続いている。また、「親所有」の割合は、**市内**（48.4%）が**市外**（36.1%）よりも12.3pt高く、市内居住者は、親元の住宅に居住しているケースが相対的に多い。

市内居住者においては親所有の住宅への居住が一定程度みられることから、実家を活用した居住の継続や、親名義の住宅の改修・リフォームの需要が存在する可能性がある。



【その他内容】（一部意見を抜粋）

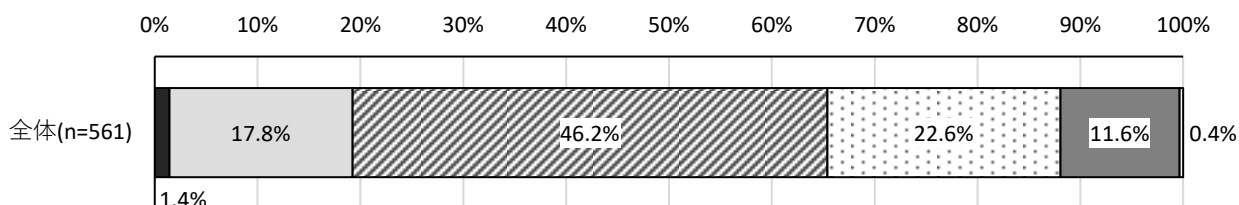
属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
女性／35～39歳／自身+親+兄弟姉妹／市内 など他 2 件	兄所有
男性／23～25歳／同居していない／市外 など他 1 件	親戚所有
女性／18～22歳／その他／市内 など他 1 件	祖父母所有
女性／26～29歳／夫婦+子ども 2 人／市内	配偶者

問3 ご家庭で所有している車の台数を教えてください。(○は一つ)

■所有していない □1台 ▨2台 □3台 ■その他 □無回答

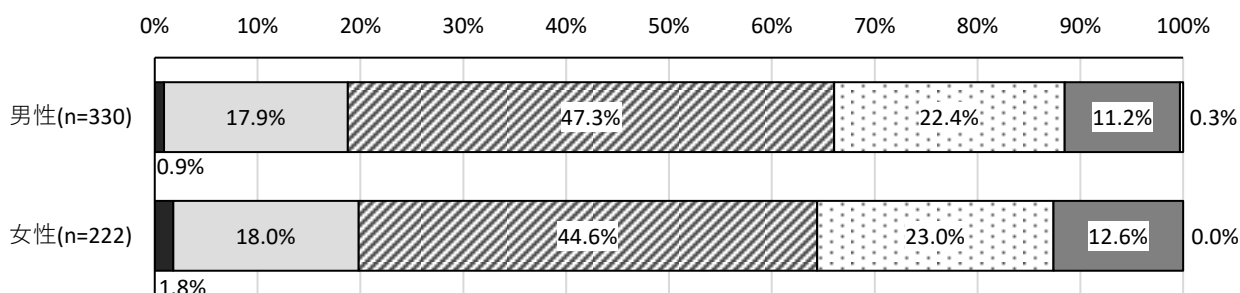
【全体】

全体では、「2台」の割合が46.2%で最も高く、次いで「3台」が22.6%、「1台」が17.8%が続いている。「所有していない」は1割未満となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「2台」の割合が最も高く（男性：47.3%、女性：44.6%）、次いで「3台」（男性：22.4%、女性：23.0%）、「1台」（男性：17.9%、女性：18.0%）の順が続いている。「所有していない」は男女ともに1割未満となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、同居していない（単身世帯）では「1台」が8割台で最も高い一方、夫婦のみの世帯と夫婦と子どもがいる世帯では「2台」が7～9割台で最も高く、世帯内の大人の人数に応じて車の保有台数が増える傾向がみられる。

また、自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では「3台」の割合が4割台で最も高く、特に兄弟姉妹も同居する世帯では「その他」が3割台で続いていることから、3台以上所有する世帯が一定数存在していることがうかがえる。

車の保有台数は世帯内の大人の人数に比例して増加する傾向がみられる。こうした背景には、地域において自家用車が日常生活の主要な移動手段となっていることから、世帯の大人それぞれが移動手段を確保する必要があり、一人一台に近い形で車を所有する世帯が多いことが影響していると考えられる。

〔居住地区別順位〕 上位1位 〔全体の結果との差〕 ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	所有していない	1台	2台	3台	その他	無回答
全体(n=561)	1.4%	17.8%	46.2%	22.6%	11.6%	0.4%
同居していない(n=65)	9.2%	★84.6%	◆4.6%	◆1.5%	◆0.0%	0.0%
夫婦(n=55)	0.0%	12.7%	★83.6%	◆1.8%	1.8%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	0.0%	◆4.7%	★90.6%	◆4.7%	◆0.0%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	0.0%	8.7%	★72.5%	15.9%	2.9%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	0.0%	8.3%	★72.2%	◆8.3%	11.1%	0.0%
自身+子ども1人以上(n=9)	0.0%	★100.0%	◆0.0%	◆0.0%	◆0.0%	0.0%
自身+親(n=103)	0.0%	8.7%	◆35.9%	★47.6%	7.8%	0.0%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	1.2%	◆3.5%	◆14.0%	★46.5%	★33.7%	1.2%

【その他内容】

属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
男性／18～22歳／自身+親+兄弟姉妹／市内 など他38件	4台
女性／35～39歳／その他／市内 など他9件	5台
女性／23～25歳／自身+親+兄弟姉妹／市外 など他3件	6台
男性／30～34歳／夫婦+子ども3人以上／市内 など他3件	7台
男性／18～22歳／その他／市外	9台
男性／26～29歳／自身+親／市内	10台以上

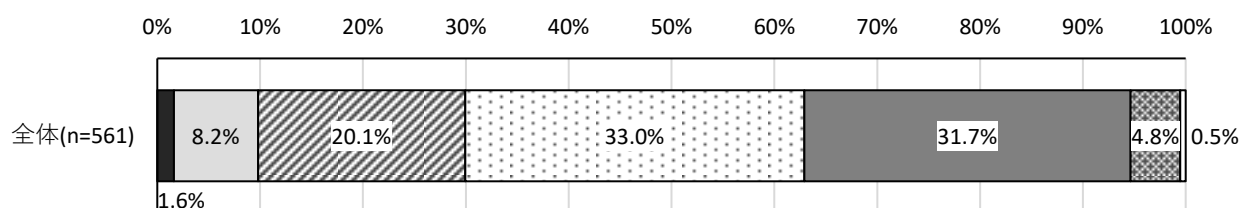
III あなたが住んでみたいと思う若者・子育て世帯向け住宅についてお聞きします。

問4 どんな「間取り」の住宅に住んでみたいか教えてください。(○は1つ)

■ワンルーム □1LDK ▨2LDK □3LDK ■4LDK ▩その他 □無回答

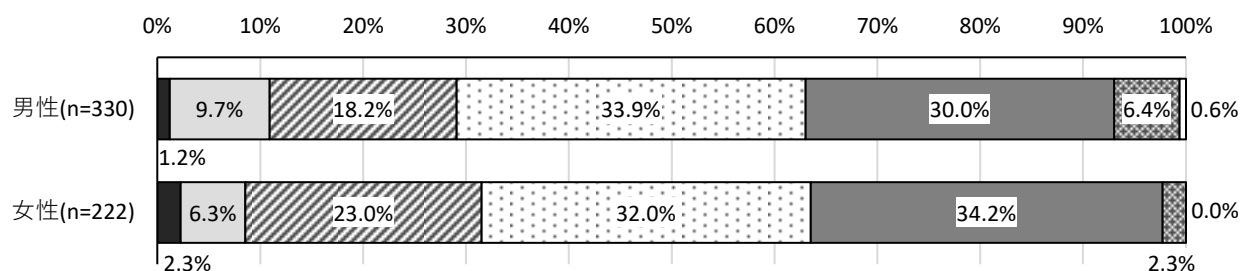
【全体】

全体では、「3LDK」の割合が33.0%で最も高く、次いで「4LDK」が31.7%、「2LDK」が20.1%が続いている。「ワンルーム」および「1LDK」はともに1割未満となっている。



【性別】

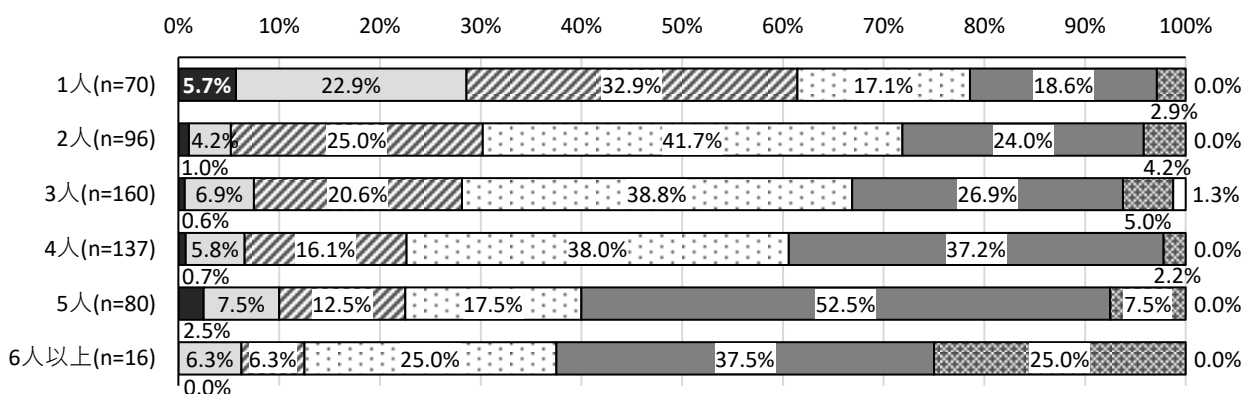
性別にみると、男性では「3LDK」の割合が33.9%で最も高く、次いで「4LDK」(30.0%)、「2LDK」(18.2%)となっている。一方、女性では「4LDK」の割合が34.2%で最も高く、次いで「3LDK」(32.0%)、「2LDK」(23.0%)の順が続いている。



【家族人数別】

家族人数別にみると、1人では「2LDK」、2～4人では「3LDK」、5人以上では「4LDK」が最も高い割合となっている。

同居家族の人数が多くなるにつれて、希望する間取りが段階的に広がる傾向がみられる。多人数世帯では、個室の確保や生活空間のゆとりを意識した選択が相対的に多い可能性がある。



【家族構成別】

家族構成別にみると、**同居していない(単身世帯)**では、「2LDK」(30.8%)の割合が最も高く、次いで「1LDK」(24.6%)が続いており、どちらも全体の割合よりも10.0pt以上高くなっている。

夫婦のみの世帯では、「3LDK」(43.6%)が最も高く、次いで、「2LDK」(27.3%)、「4LDK」(23.6%)が続いており、「3LDK」は全体の割合よりも10.0pt以上高くなっている。

夫婦と子どもがいる世帯では、いずれも「4LDK」の割合が最も高く、次いで「3LDK」が続いている。また、子どもの人数が増えるほど「4LDK」を希望する割合が高く、**子ども1人**では39.1%、**子ども2人**では46.4%、**子ども3人**では69.4%となっている。

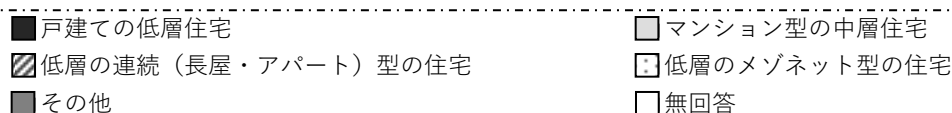
自身と親(+兄弟姉妹)がいる世帯では、ともに「3LDK」の割合が3割台で最も高くなっている。**自身と親のみの世帯**では「2LDK」(29.1%)、**兄弟姉妹も同居する世帯**では「4LDK」(23.3%)が2番目に高い割合となっている。

[家族構成別順位] 上位1位 上位2位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	ワンルーム	1LDK	2LDK	3LDK	4LDK	その他	無回答
全体(n=561)	1.6%	8.2%	20.1%	33.0%	31.7%	4.8%	0.5%
同居していない(n=65)	6.2%	★24.6%	★30.8%	◆18.5%	◆16.9%	3.1%	0.0%
夫婦(n=55)	0.0%	1.8%	27.3%	★43.6%	23.6%	3.6%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	0.0%	3.1%	17.2%	35.9%	★39.1%	4.7%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	1.4%	4.3%	◆10.1%	36.2%	★46.4%	1.4%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	0.0%	2.8%	◆2.8%	◆16.7%	★69.4%	8.3%	0.0%
自身+子ども1人以上(n=9)	0.0%	0.0%	11.1%	★44.4%	33.3%	11.1%	11.1%
自身+親(n=103)	1.9%	5.8%	29.1%	37.9%	◆18.4%	4.9%	1.9%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	2.3%	8.1%	19.8%	37.2%	23.3%	9.3%	0.0%

【その他内容】(一部意見を抜粋)

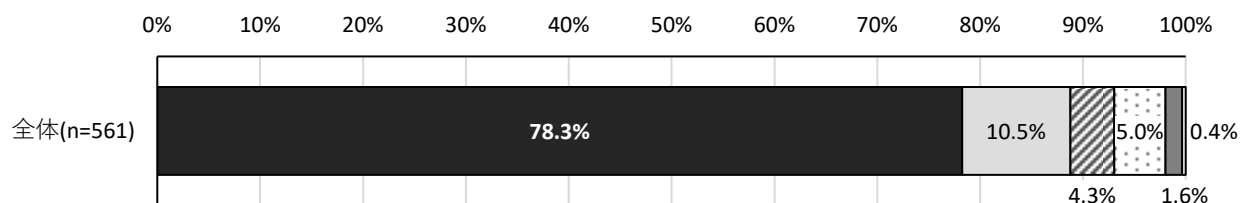
属性 (性別/年齢/家族構成/お住いの地域)	その他内容
男性/30～34歳/同居していない/市内	1 K
男性/30～34歳/夫婦+子ども1人/市内	3 D K
男性/18～22歳/自身+親/市内	4 D K
女性/18～22歳/自身+親+兄弟姉妹/市内 など他2件	5 L D K
男性/35～39歳/夫婦+子ども2人/市外	5 L D K以上
男性/35～39歳/自身+子ども2人/市内	5 S L D K
男性/30～34歳/夫婦+子ども3人以上/市内 など他1件	6 L D K
女性/18～22歳/夫婦+子ども3人以上/市内	7 L D K

問5 どんな「住棟タイプ」の住宅に住んでみたいか教えてください。(○は1つ)



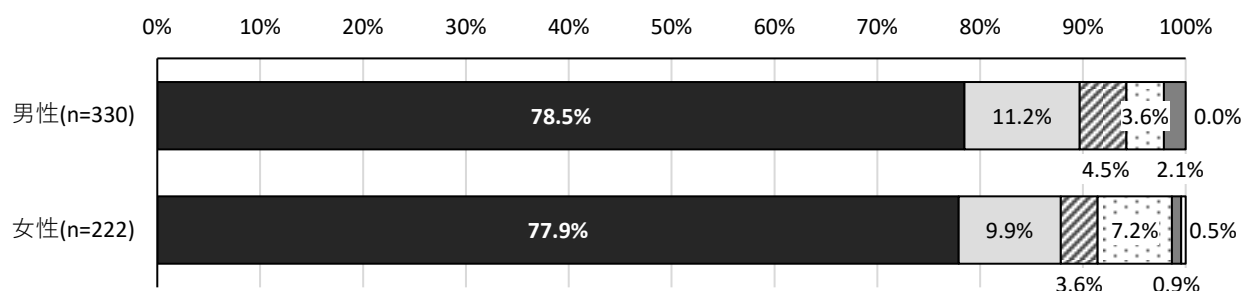
【全体】

全体では、「戸建ての低層住宅」の割合が78.3%で最も高く、次いで「マンション型の中層住宅」が10.5%が続いている。「低層の連続（長屋・アパート）型の住宅」および「低層のメゾネット型※の住宅」はともに1割未満となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「戸建ての低層住宅」の割合が最も高く（男性：78.5%、女性：77.9%）、次いで「マンション型の中層住宅」（男性：11.2%、女性：9.9%）が続いている。男女ともに「低層の連続（長屋・アパート）型の住宅」および「低層のメゾネット型の住宅」はいずれも1割未満となっている。



※メゾネット型とは

- ・共同（集合）住宅の住戸形式の一つで住戸内が2層に分かれていて、内階段で結ばれている住戸で形成された住宅のこと
- ・戸建て住宅の感覚を味わえる共同（集合）住宅

【家族構成別】

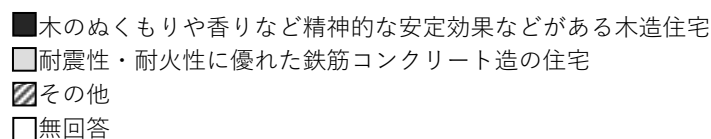
家族構成別にみると、すべての世帯において「戸建ての低層住宅」の割合が最も高くなっている。
同居していない（単身世帯）では、「戸建ての低層住宅」の割合が全体より 10.0pt 以上低く、相対的にみると他の世帯よりも戸建てへのニーズがやや低い傾向がみられる。

[家族構成別順位] 上位 1 位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	戸建ての低層住宅	マンション型の中層住宅	低層の連続（長屋・アパート）型の住宅	低層のメゾネット型の住宅	その他	無回答
全体(n=561)	78.3%	10.5%	4.3%	5.0%	1.6%	0.4%
同居していない(n=65)	◆55.4%	18.5%	12.3%	10.8%	3.1%	0.0%
夫婦(n=55)	83.6%	3.6%	1.8%	9.1%	1.8%	0.0%
夫婦＋子ども1人(n=64)	79.7%	12.5%	4.7%	3.1%	0.0%	0.0%
夫婦＋子ども2人(n=69)	85.5%	10.1%	1.4%	2.9%	0.0%	0.0%
夫婦＋子ども3人以上(n=36)	86.1%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	2.8%
自身＋子ども1人以上(n=9)	77.8%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
自身＋親(n=103)	79.6%	12.6%	3.9%	1.9%	1.9%	0.0%
自身＋親＋兄弟姉妹(n=86)	75.6%	10.5%	5.8%	4.7%	3.5%	0.0%

【その他内容】（一部意見を抜粋）

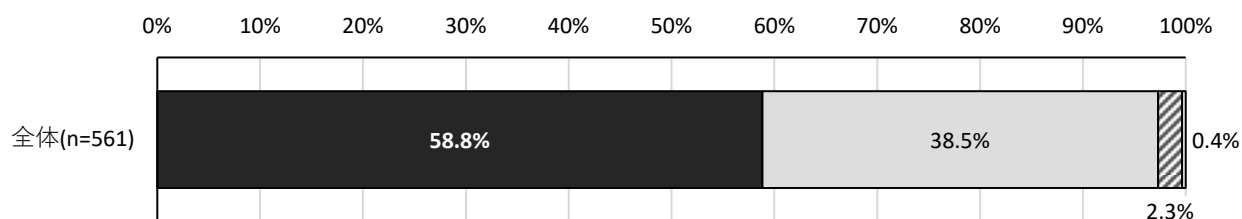
属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
女性／30～34歳／同居していない／市内	ソーシャルアパートメント
男性／35～39歳／自身+親+兄弟姉妹／市外	平屋

問6 どんな「構造」の住宅に住んでみたいか教えてください。(○は1つ)



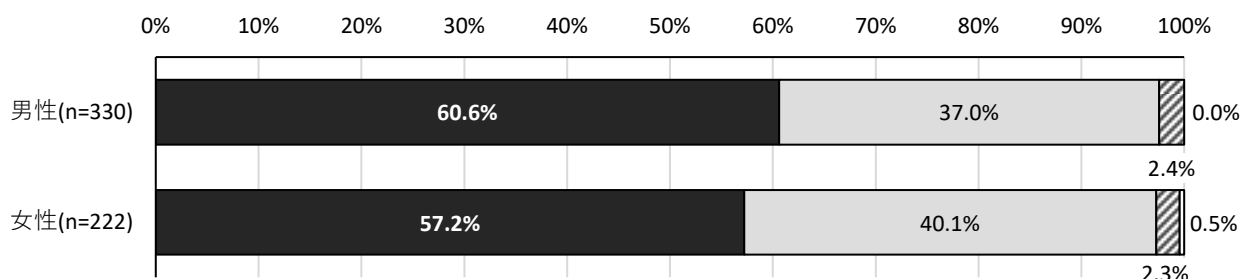
【全体】

全体では、「木のぬくもりや香りなど精神的な安定効果などがある木造住宅」（以下「木造住宅」）の割合が 58.8%で最も高く、次いで「耐震性・耐火性に優れた鉄筋コンクリート造の住宅」（以下「鉄筋コンクリート造住宅」）が 38.5%で続いている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「木造住宅」の割合が最も高く（男性：60.6%、女性：57.2%）、次いで「鉄筋コンクリート造住宅」（男性：37.0%、女性：40.1%）が続いている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、**自身+子ども1人以上の世帯を除くすべての世帯**で、「木造住宅」が「鉄筋コンクリート造住宅」の割合を上回っている。また、**夫婦+子ども3人以上の世帯**では、「木造住宅」の割合が全体より 10.0pt 以上高く、木造住宅のニーズが相対的に高い傾向にある。

[家族構成別順位] 上位1位	[全体の結果との差]			
	★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い			
	木のぬくもりや香りなど精神的な安定効果などがある木造住宅	耐震性・耐火性に優れた鉄筋コンクリート造の住宅	その他	無回答
全体(n=561)	58.8%	38.5%	2.3%	0.4%
同居していない(n=65)	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
夫婦(n=55)	54.5%	40.0%	5.5%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	67.2%	◆28.1%	4.7%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	59.4%	40.6%	0.0%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	★75.0%	◆19.4%	2.8%	2.8%
自身+子ども1人以上(n=9)	◆33.3%	★55.6%	11.1%	0.0%
自身+親(n=103)	53.4%	45.6%	1.0%	0.0%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	55.8%	41.9%	2.3%	0.0%

【住みたい住棟タイプ別（問5）】

問5の住みたい住棟タイプ別にみると、**戸建ての低層住宅**を希望する層では62.6%が「木造住宅」を選択しており、将来的な居住の理想像として木造戸建てを志向する傾向がみられる。一方、**マンション型の中層住宅**を希望する層では62.7%が「鉄筋コンクリート造住宅」と回答しており、集合住宅においては耐震性・耐火性などの安心性を重視する姿勢がうかがえる。

低層の連続（長屋・アパート型）の住宅では「木造住宅」が45.8%、「鉄筋コンクリート造住宅」が50.0%と約半数ずつで希望が分かれており、特定の構造への強い志向性は確認されない。一方で、**低層のメゾネット型の住宅**では60.7%が木造住宅を選択しており、戸建てに近い居住性を求める層が木造を支持している可能性がある。

将来の住宅の理想像としては、木造戸建てのニーズが相対的に高い一方、集合住宅を整備する場合には鉄筋コンクリート造への支持が強いなど、住宅形式によって求められる構造が異なることがうかがえる。

[住みたい住棟タイプ別順位] 上位1位		問6 住みたい「住宅の構造」			
[全体との結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い		木造住宅	鉄筋コンクリート造の住宅	その他	無回答
問5 住みたい 「住棟タイプ」	全体(n=561)	58.8%	38.5%	2.3%	0.4%
	戸建ての低層住宅(n=439)	62.6%	35.1%	2.3%	0.0%
	マンション型の中層住宅(n=59)	◆35.6%	★62.7%	1.7%	0.0%
	低層の連続（長屋・アパート）型の住宅(n=24)	◆45.8%	★50.0%	4.2%	0.0%
	低層のメゾネット型の住宅(n=28)	60.7%	39.3%	0.0%	0.0%

【その他内容】（一部意見を抜粋）

属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
男性／30～34歳／夫婦+子ども1人／市外	軽量鉄骨造
男性／18～22歳／夫婦+子ども3人以上／市内	木造とコンクリの混合
男性／35～39歳／夫婦／市外	断熱性が高く、省エネな木造住宅
女性／30～34歳／自身+親／市外	防音がしっかりしている

問7 住宅を整備するにあたり、次のA～Pの項目の「機能や整備等」が、どのくらい必要と考えますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、数字に○をつけてください。(各項目で○を一つ)

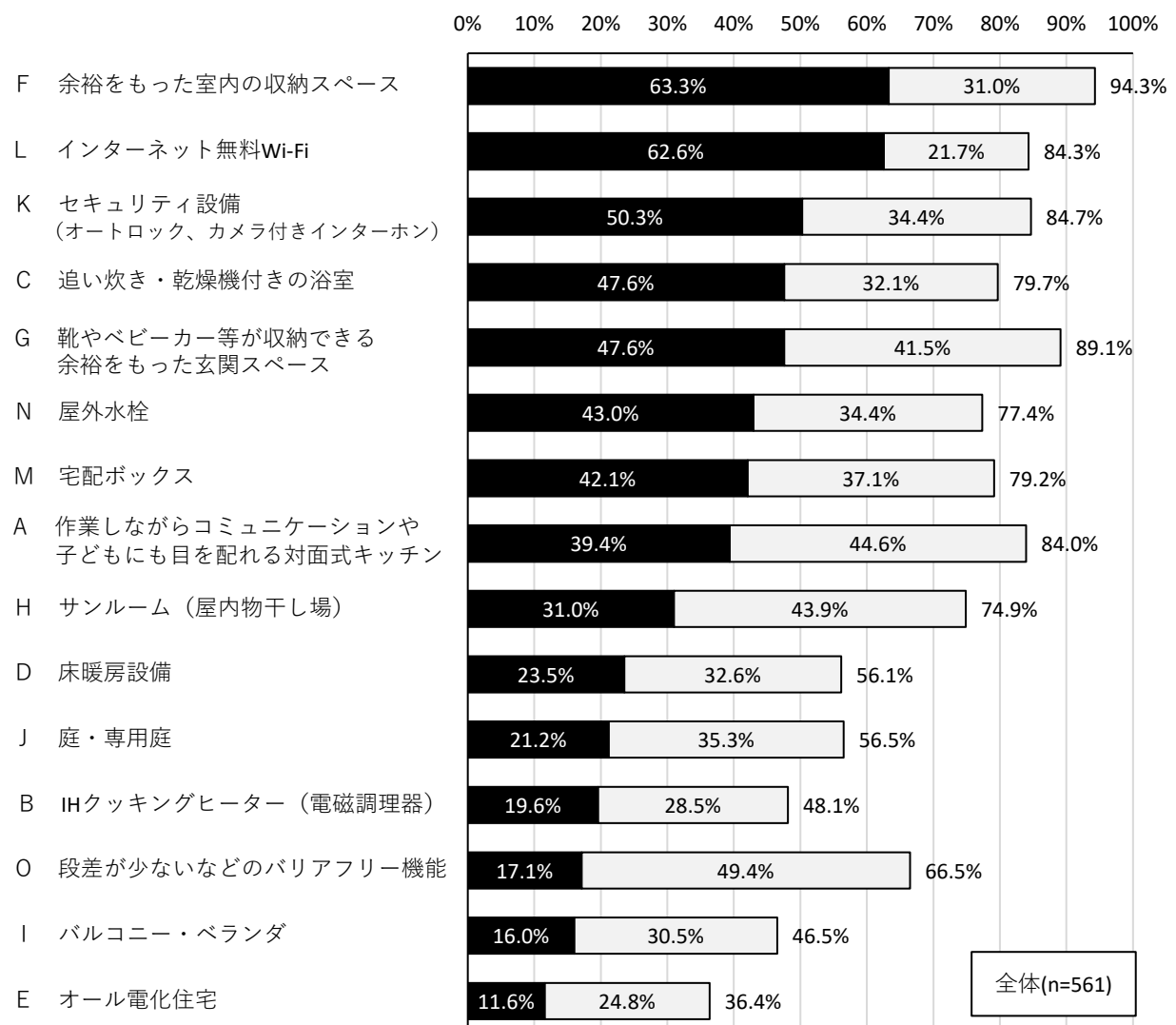
■必ず必要 □どちらかといえば必要 合計値（「必ず必要」+「どちらかといえば必要」）

【全体】

「必ず必要」と回答した割合は、「F 余裕をもった室内の収納スペース」（以下「F 室内収納」）が63.3%で最も高く、次いで、「L インターネット無料Wi-Fi」（以下「L 無料Wi-Fi」）が62.6%、「K セキュリティ設備（オートロック、カメラ付きインターホン）」（以下「K セキュリティ設備」）が50.3%で続いている。

また、「必ず必要」および「どちらかといえば必要」を合わせた（以下『必要』）の割合は、これらの項目をはじめ、「G 靴やベビーカー等が収納できる余裕をもった玄関スペース」（以下「G 玄関スペース」）、「A 作業しながらコミュニケーションや子どもにも目が配れる対面式キッチン」（以下「A 対面式キッチン」）など9項目で7割を超えている。

一方で、「B IHやクッキングヒーター（電磁調理器）」および「I バルコニー・ベランダ」、「E オール電化住宅」の3項目においては、『必要』の割合が5割を下回っており、整備の優先度はやや低いと考えられる。



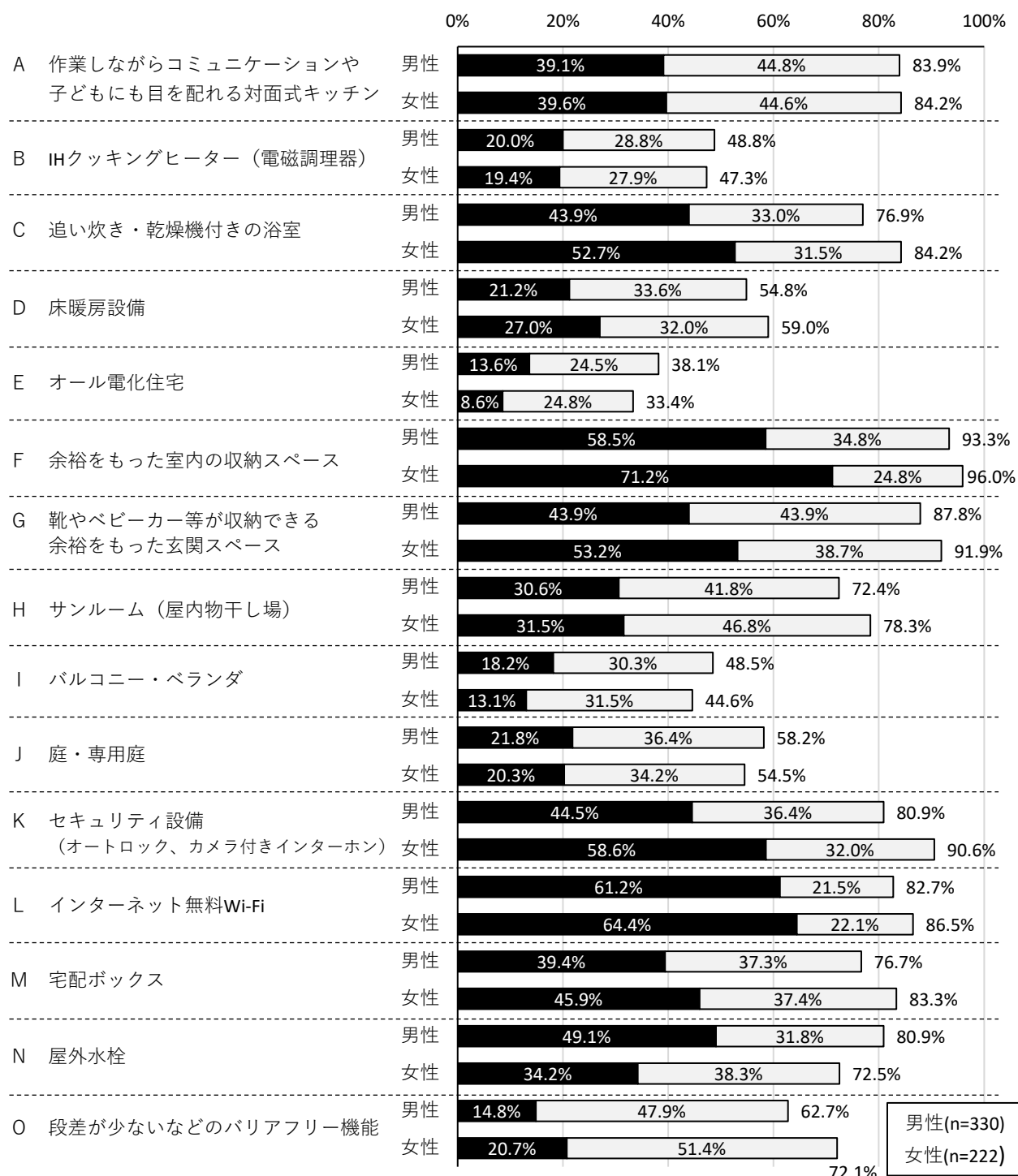
■ 必ず必要 □ どちらかといえば必要 合計値（「必ず必要」+「どちらかといえば必要」）

【性別】

性別に「必ず必要」と回答した割合の上位3項目をみると、**男性**では「L 無料Wi-Fi」（61.2%）が最も高く、次いで「F 室内収納」（58.5%）、「N 屋外水栓」（49.1%）の順となっている。

一方、**女性**では「F 室内収納」（71.2%）が最も高く、次いで「L 無料Wi-Fi」（64.4%）、「K セキュリティ設備」（58.6%）の順となっている。

また、男女間で「必ず必要」に10.0pt以上の差がある項目として、女性が男性を「F 室内収納」（12.7pt 差）、「K セキュリティ設備」（14.1pt 差）で上回っており、一方、男性が女性を「N 屋外水栓」（14.9pt 差）で上回っている。



【家族構成別】

家族構成別に「必ず必要」と回答した割合をみると、**夫婦と子どもがいる世帯**では、割合が高い項目が多い傾向にあり、特に「F 室内収納」や「G 玄関スペース」といった収納スペースや「L 無料 Wi-Fi」のほか、「N 屋外水栓」が共通して高くなっている。

また、子どもの人数による違いもみられ、「J 庭・専用庭」では、子どもの人数が増えるほど必要度が高くなる一方で、「I バルコニー・ベランダ」は子どもの人数が増えるにつれて必要度が低くなっている。これは、子どもの人数が増えるほど、屋外での遊び場や生活空間として庭を必要とする度合いが高まり、その分、広さの確保が難しいバルコニーの優先度が相対的に低くなるためという可能性が考えられる。

一方で、**同居していない（単身世帯）**では、「L 無料 Wi-Fi」（56.9%）が最も高く、次いで「F 室内収納」（52.3%）が続いている。その他の項目はいずれも5割未満にとどまり、子どもがいる世帯と比較すると「必ず必要」とする設備の種類は限定的であることがうかがえる。「A 対面式キッチン」や「F 室内収納」は全体の割合より10.0pt以上低く、特に対面式キッチンは単身世帯での優先度が低い項目となっている。

夫婦のみの世帯では、「F 室内収納」（58.2%）が最も高く、収納に対する一定のニーズはみられる一方、「G 玄関スペース」（36.4%）は全体の割合より10.0pt以上低く、玄関周りの空間については比較的優先度が低い傾向がある。また、「L 無料 Wi-Fi」および「M 宅配ボックス」は同率（50.9%）で上位2位となっており、生活の効率を高める機能の優先度が相対的に高いことがうかがえる。

自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では、全体の結果と同様、「F 室内収納」、「L 無料 Wi-Fi」、「K セキュリティ設備」が上位3位を占めた。また、**自身と親がいる世帯**では、「I バルコニー・ベランダ」が全体の割合より10.0pt以上高くなっている。

求められる住宅設備は、世帯構成に応じて異なり、特に子どもがいる世帯では家事効率化・収納・屋外空間といった複合的なニーズが強い一方、単身世帯や夫婦のみの世帯では必要とする設備の種類が限定的であることがうかがえる。

「必ず必要」の割合	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
[家族構成別順位] 上位1位 上位2位 上位3位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	対面式キッチン	I H キッチン	C の追い炊き・乾燥機付き	D 床暖房設備	E オール電化住宅	F 室内収納	G 玄関スペース	H サニタリー	I バルコニー・ベランダ	J 庭・専用庭	K セキュリティ設備	L 無料 Wi-Fi	M 宅配ボックス	N 屋外水栓	O バリアフリー機能
全体(n=561)	39.4%	19.6%	47.6%	23.5%	11.6%	63.3%	47.6%	31.0%	16.0%	21.2%	50.3%	62.6%	42.1%	43.0%	17.1%
同居していない(n=65)	◆29.2%	15.4%	40.0%	18.5%	9.2%	◆52.3%	41.5%	32.3%	20.0%	15.4%	49.2%	56.9%	35.4%	33.8%	13.8%
夫婦(n=55)	36.4%	16.4%	43.6%	18.2%	10.9%	58.2%	◆36.4%	27.3%	16.4%	18.2%	41.8%	◆50.9%	50.9%	43.6%	9.1%
夫婦+子ども1人(n=64)	★57.8%	★34.4%	56.3%	18.8%	18.8%	64.1%	★57.8%	40.6%	17.2%	18.8%	57.8%	70.3%	★54.7%	★62.5%	21.9%
夫婦+子ども2人(n=69)	47.8%	18.8%	43.5%	15.9%	11.6%	★75.4%	★66.7%	34.8%	10.1%	30.4%	52.2%	★76.8%	43.5%	★53.6%	18.8%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	★50.0%	19.4%	47.2%	30.6%	13.9%	★75.0%	★66.7%	30.6%	◆5.6%	★33.3%	47.2%	66.7%	41.7%	52.8%	13.9%
自身+子ども1人以上(n=9)	44.4%	◆0.0%	55.6%	22.2%	◆0.0%	★77.8%	★66.7%	★66.7%	11.1%	◆11.1%	55.6%	66.7%	33.3%	33.3%	◆0.0%
自身+親(n=103)	39.8%	23.3%	47.6%	26.2%	11.7%	64.1%	37.9%	31.1%	★26.2%	23.3%	54.4%	63.1%	37.9%	41.7%	21.4%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	33.7%	18.6%	46.5%	29.1%	14.0%	54.7%	39.5%	23.3%	15.1%	18.6%	53.5%	61.6%	50.0%	39.5%	19.8%

問 8 住宅とあわせた整備が考えられる A～K の項目の「付帯設備等」が、どのくらい必要と考えますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、数字に○をつけてください。(各項目で○を一つ)

■ 必ず必要

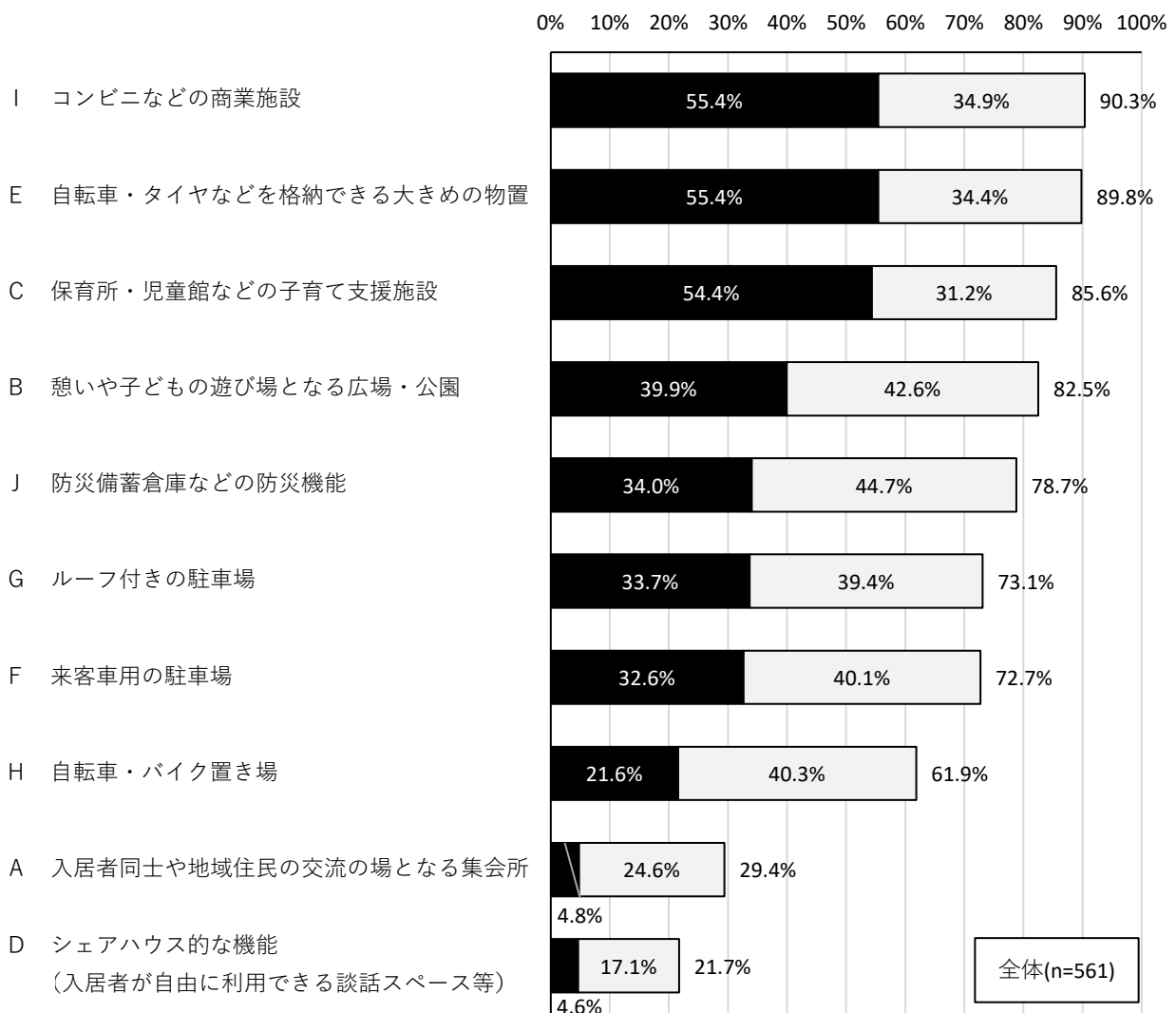
□ どちらかといえば必要

合計値（「必ず必要」+「どちらかといえば必要」）

【全体】

「必ず必要」と回答した割合は、「I コンビニなどの商業施設」および「E 自転車・タイヤなどを格納できる大きめの物置」（以下「E 大きめの物置」）がともに 55.4%で最も高く、次いで、「C 保育所・児童館などの子育て支援施設」が 54.4%で続いている。

また、「必ず必要」および「どちらかといえば必要」を合わせた（以下『必要』）の割合は、これらの項目をはじめ、「B 憩いや子どもの遊び場となる広場・公園」（以下「B 広場・公園」）、「J 防災備蓄倉庫などの防災機能」（以下「J 防災機能」）、「G ルーフ付きの駐車場」、「F 来客用の駐車場」など7項目で7割を超えている。一方で、「A 入居者同士や地域住民の交流の場となる集会所」および「D シェアハウスの機能（入居者が自由に利用できる談話スペース等）」（以下「D シェアハウスの機能」）の2項目においては、『必要』の割合が2割以下となっており、整備の優先度はやや低いと考えられる。



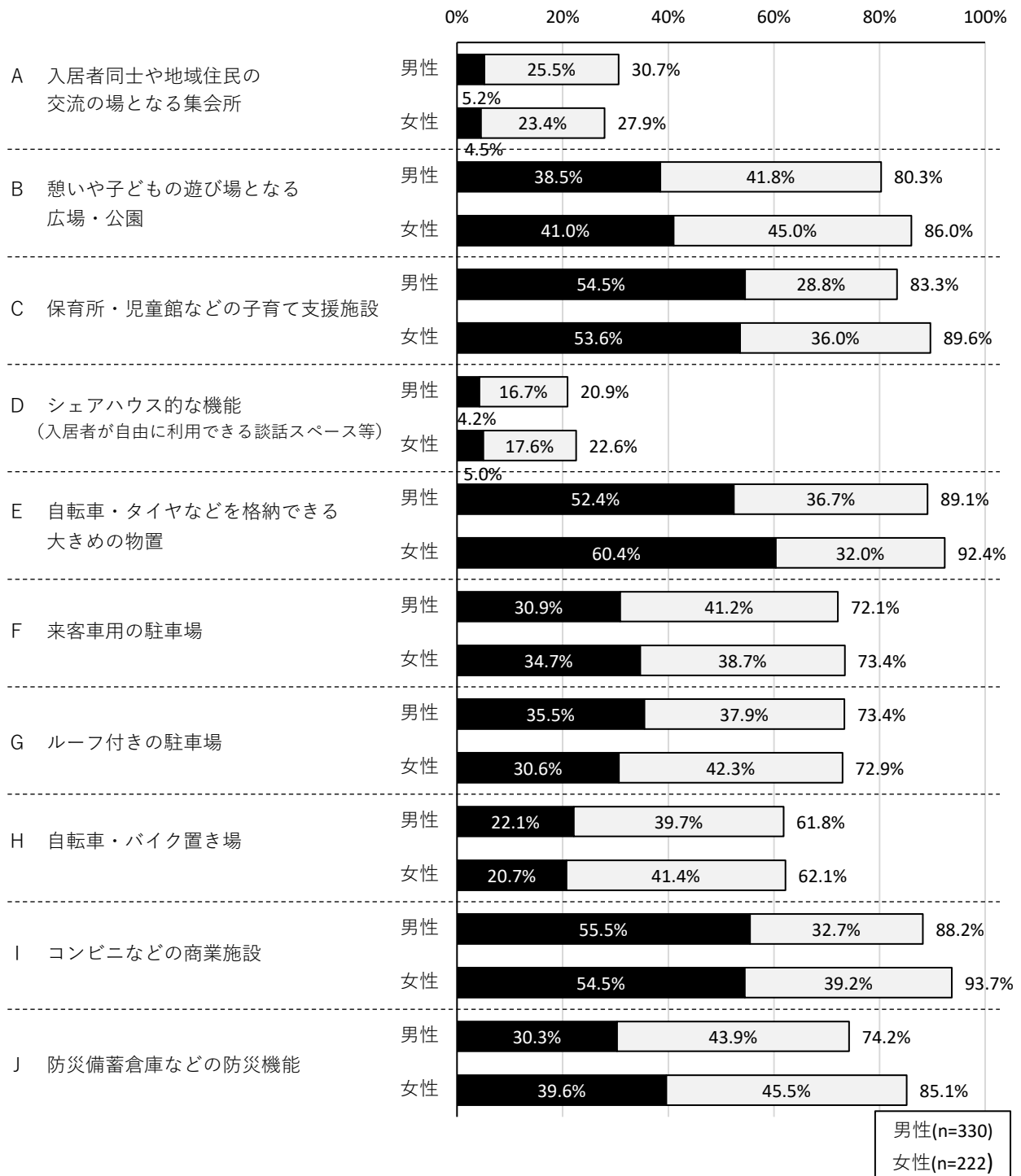
☒ 必ず必要
 ☐ どちらかといえば必要
 合計値（「必ず必要」+「どちらかといえば必要」）

【性別】

性別に「必ず必要」と回答した割合の上位3項目をみると、**男性**では「I コンビニなどの商業施設」（55.5%）が最も高く、次いで、「C 保育所・児童館などの子育て支援施設」（54.5%）、「E 大きめの物置」（52.4%）の順となっている。

一方、**女性**では「E 大きめの物置」（60.4%）が最も高く、次いで、「I コンビニなどの商業施設」（54.5%）、「C 保育所・児童館などの子育て支援施設」（53.6%）の順となっている。

また、男女間で「必ず必要」に10.0pt以上の差がある項目はみられない。



【家族構成別】

家族構成別に「必ず必要」と回答した割合をみると、同居していない（単身世帯）、夫婦のみの世帯、自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では、全体の結果と同様、「I コンビニなどの商業施設」、「E 大きめの物置」、「C 保育所・児童館などの子育て支援施設」の3項目が上位3位を占めている。

一方、夫婦と子どもがいる世帯では、「B 広場・公園」や「C 保育所・児童館などの子育て支援施設」といった子育て世帯の生活を支える設備に対する必要度が高く、加えて「E 大きめの物置」も高い割合となっている。これらの項目はいずれも5割を超えており、子どもの人数にかかわらず高い割合となっている。

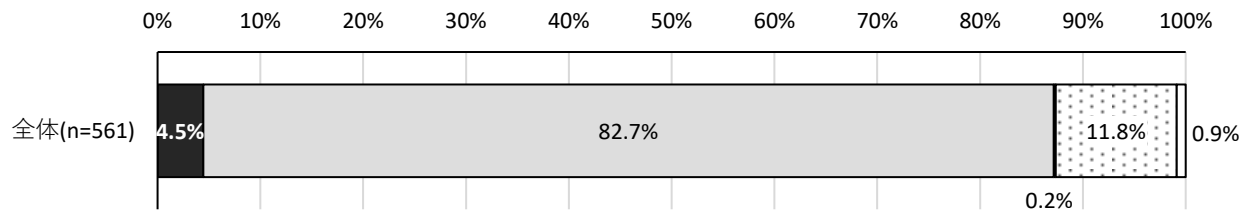
「必ず必要」の割合 [家族構成別順位] 上位1位 上位2位 上位3位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	A 交流の場となる地域集会所の	B 憩いやすい広場・公園の遊び場と	C 子育て支援施設・児童館などの	D （入居者が自由に利用できる） シェアハウスの機能	E 格納できる大きめの物を置	F 来客専用の駐車場	G ルーフ付きの駐車場	H 自転車・バイク置き場	I コンビニなどの商業施設	J 防災機能・備蓄倉庫などの
全体(n=561)	4.8%	39.9%	54.4%	4.6%	55.4%	32.6%	33.7%	21.6%	55.4%	34.0%
同居していない(n=65)	6.2%	40.0%	47.7%	7.7%	49.2%	35.4%	36.9%	27.7%	53.8%	38.5%
夫婦(n=55)	3.6%	◆ 27.3%	47.3%	1.8%	56.4%	29.1%	30.9%	16.4%	49.1%	27.3%
夫婦+子ども1人(n=64)	6.3%	★ 56.3%	64.1%	4.7%	64.1%	42.2%	35.9%	18.8%	51.6%	34.4%
夫婦+子ども2人(n=69)	1.4%	★ 55.1%	63.8%	0.0%	65.2%	30.4%	36.2%	29.0%	46.4%	29.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	2.8%	★ 50.0%	★ 66.7%	2.8%	★ 66.7%	33.3%	36.1%	◆ 11.1%	52.8%	◆ 22.2%
自身+子ども1人以上(n=9)	0.0%	◆ 0.0%	★ 66.7%	0.0%	◆ 44.4%	★ 55.6%	◆ 11.1%	◆ 11.1%	◆ 44.4%	33.3%
自身+親(n=103)	9.7%	30.1%	47.6%	10.7%	52.4%	33.0%	38.8%	27.2%	★ 67.0%	39.8%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	3.5%	39.5%	53.5%	4.7%	47.7%	27.9%	27.9%	19.8%	53.5%	34.9%

問9 住宅に必要な駐車場の規模について、あなたの考えを教えてください。(○は1つ)

■ 1住戸当たり1台 □ 1住戸当たり2台 ▨ 必要ない ▤ その他 □ 無回答

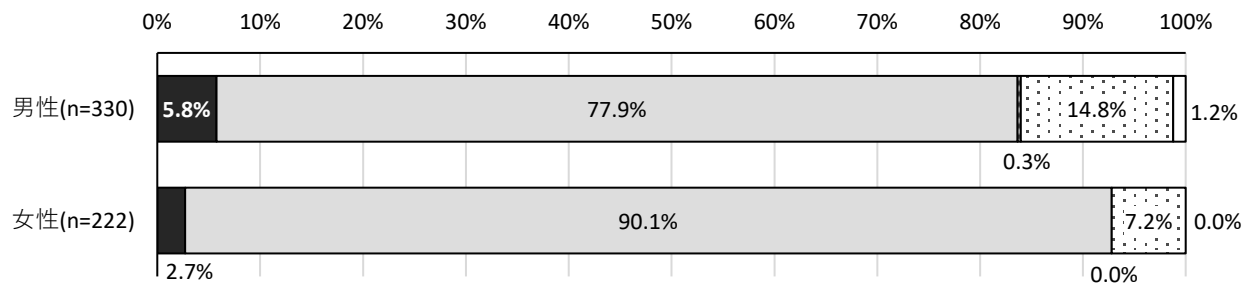
【全体】

全体では、「1住戸当たり2台」の割合が82.7%で大多数を占めている。「1住戸当たり1台」および「必要ない」はともに1割未満となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「1住戸当たり2台」の割合が最も高く（男性：77.9%、女性：90.1%）、特に女性では9割を超え、男性より12.2pt高い割合となっている。



【家族構成別】

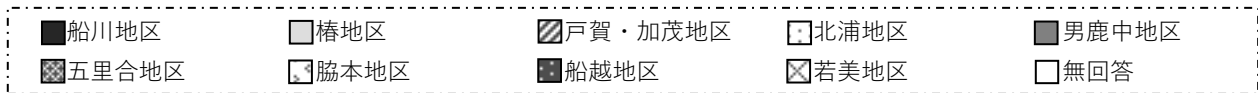
家族構成別にみると、いずれの世帯においても「1 住戸当たり 2 台」の割合が最も高くなっている。
また、同居していない（単身世帯）では、「1 住戸当たり 1 台」の割合が全体より 10.0pt 以上高く、単身世帯では 1 台で足りると考える回答が相対的に多くなっている。

[家族構成別順位] 上位 1 位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	1 住戸当たり 1 台	1 住戸当たり 2 台	必要ない	その他	無回答
全体(n=561)	4.5%	82.7%	0.2%	11.8%	0.9%
同居していない(n=65)	★21.5%	◆72.3%	0.0%	6.2%	0.0%
夫婦(n=55)	0.0%	89.1%	0.0%	10.9%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	0.0%	81.3%	1.6%	17.2%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	1.4%	91.3%	0.0%	7.2%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	0.0%	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%
自身+子ども1人以上(n=9)	0.0%	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%
自身+親(n=103)	4.9%	78.6%	0.0%	14.6%	1.9%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	4.7%	79.1%	0.0%	15.1%	1.2%

【その他内容】

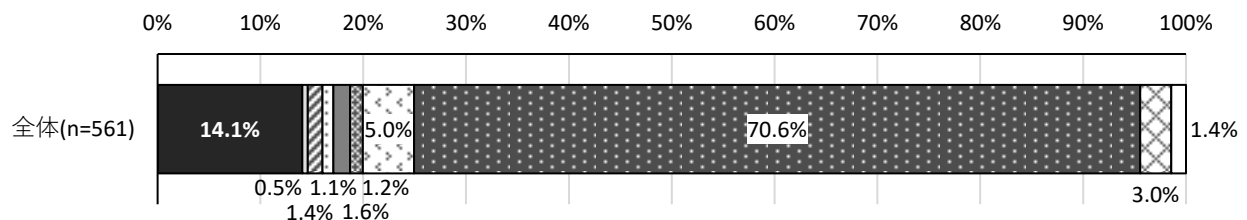
属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
男性／18～22歳／自身+親+兄弟姉妹／市内 など他 3 件	1 住戸当たり 1 人 1 台
男性／35～39歳／自身+親／市内 など他 1 件	1 住戸当たり 2 台以上
男性／26～29歳／自身+親／市外 など他21件	1 住戸当たり 3 台
女性／35～39歳／夫婦+子ども 1 人／市外 など他 8 件	1 住戸当たり 3 台以上
女性／18～22歳／自身+親+兄弟姉妹／市内 など他 3 件	1 住戸当たり 3～4 台
女性／18～22歳／自身+親+兄弟姉妹／市外 など他11件	1 住戸当たり 4 台
男性／26～29歳／その他／市内	1 住戸当たり 4 台以上
女性／35～39歳／夫婦+子ども 2 人／市内 など他 2 件	1 住戸当たり 4～5 台
男性／30～34歳／夫婦／市外 など他 2 件	1 住戸当たり 5 台
男性／30～34歳／夫婦+子ども 1 人／市内	1 住戸当たり 6 台

問 10 住宅環境が整備された場合、男鹿市内のどの地区に住みたいですか。住みたい地区に1つ選び○をつけてください。



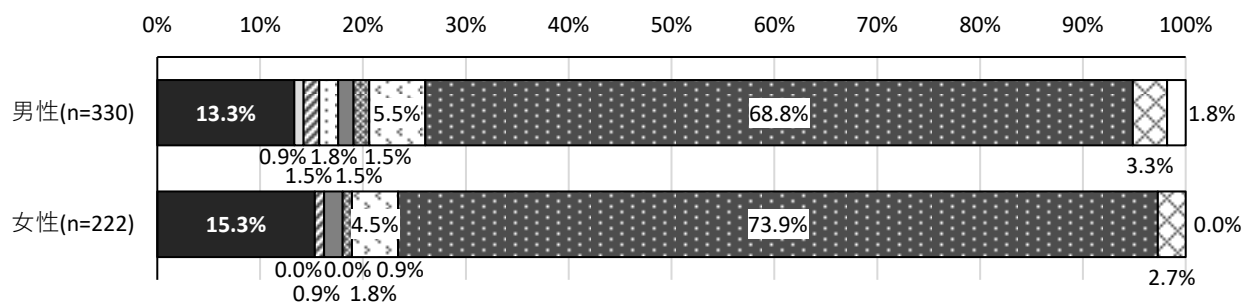
【全体】

全体では、「船越地区」の割合が70.6%と突出して高く、次いで「船川地区」が14.1%が続いている。その他の地区は、いずれも1割未満となっている。



【性別】

性別にみると、男女ともに「船越地区」の割合が最も高く（男性：68.8%、女性：73.9%）、次いで「船川地区」（男性：13.3%、女性：15.3%）の順が続いている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの世帯においても「船越地区」の割合が最も高くなっている。

[居住地区別順位] 上位1位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	船川地区	樺地区	戸賀・加茂地区	北浦地区	男鹿中地区	五里合地区	脇本地区	船越地区	若美地区	無回答
全体(n=561)	14.1%	0.5%	1.4%	1.1%	1.6%	1.2%	5.0%	70.6%	3.0%	1.4%
同居していない(n=65)	18.5%	1.5%	3.1%	0.0%	4.6%	1.5%	3.1%	66.2%	0.0%	1.5%
夫婦(n=55)	16.4%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	3.6%	72.7%	3.6%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	10.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	4.7%	★81.3%	0.0%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	14.5%	0.0%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	78.3%	1.4%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	13.9%	0.0%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	2.8%	72.2%	5.6%	0.0%
自身+子ども1人以上(n=9)	★44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	◆55.6%	0.0%	0.0%
自身+親(n=103)	14.6%	1.0%	1.0%	1.0%	1.9%	0.0%	7.8%	67.0%	2.9%	2.9%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	14.0%	1.2%	2.3%	2.3%	1.2%	2.3%	10.5%	◆59.3%	4.7%	2.3%

【居住地区別】

居住地区別にみると、**船川地区**と**戸賀・加茂地区**の2地区では「船川地区」を希望する割合が最も高く、その他の地区ではいずれも「船越地区」を希望する割合が最も高くなっている。

また、**樺地区と戸賀・加茂地区を除く市内7地区**では、現在の居住地区を回答した割合が全体の割合より10.0pt以上高く、今後も同じ地区で住み続けたいと考える層が一定程度存在している。

[家族構成別順位]		住みたい地区									
上位1位		船川地区	樺地区	戸賀・加茂地区	北浦地区	男鹿中地区	五里合地区	脇本地区	船越地区	若美地区	無回答
[全体の結果との差]											
★全体より10.0pt以上高い											
◆全体より10.0pt以上低い											
全体(n=561)		14.1%	0.5%	1.4%	1.1%	1.6%	1.2%	5.0%	70.6%	3.0%	1.4%
現在住んでいる地区	船川地区(n=81)	★50.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	◆43.2%	0.0%	1.2%
	樺地区(n=4)	◆0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	★25.0%
	戸賀・加茂地区(n=1)	★100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	◆0.0%	0.0%	0.0%
	北浦地区(n=12)	16.7%	0.0%	0.0%	★33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	◆41.7%	0.0%	0.0%
	男鹿中地区(n=9)	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	★33.3%	0.0%	0.0%	◆44.4%	0.0%	11.1%
	五里合地区(n=10)	◆0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	★40.0%	0.0%	◆60.0%	0.0%	0.0%
	脇本地区(n=36)	◆5.6%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	★38.9%	◆52.8%	0.0%	0.0%
	船越地区(n=121)	◆1.7%	0.0%	1.7%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	★95.0%	0.0%	0.8%
	若美地区(n=36)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	63.9%	★36.1%	0.0%
	男鹿市内(n=310)	15.8%	0.0%	1.6%	1.6%	1.0%	1.3%	5.5%	67.7%	4.2%	1.3%
	男鹿市外(n=249)	12.0%	1.2%	1.2%	0.4%	2.4%	1.2%	4.4%	74.7%	1.6%	0.8%

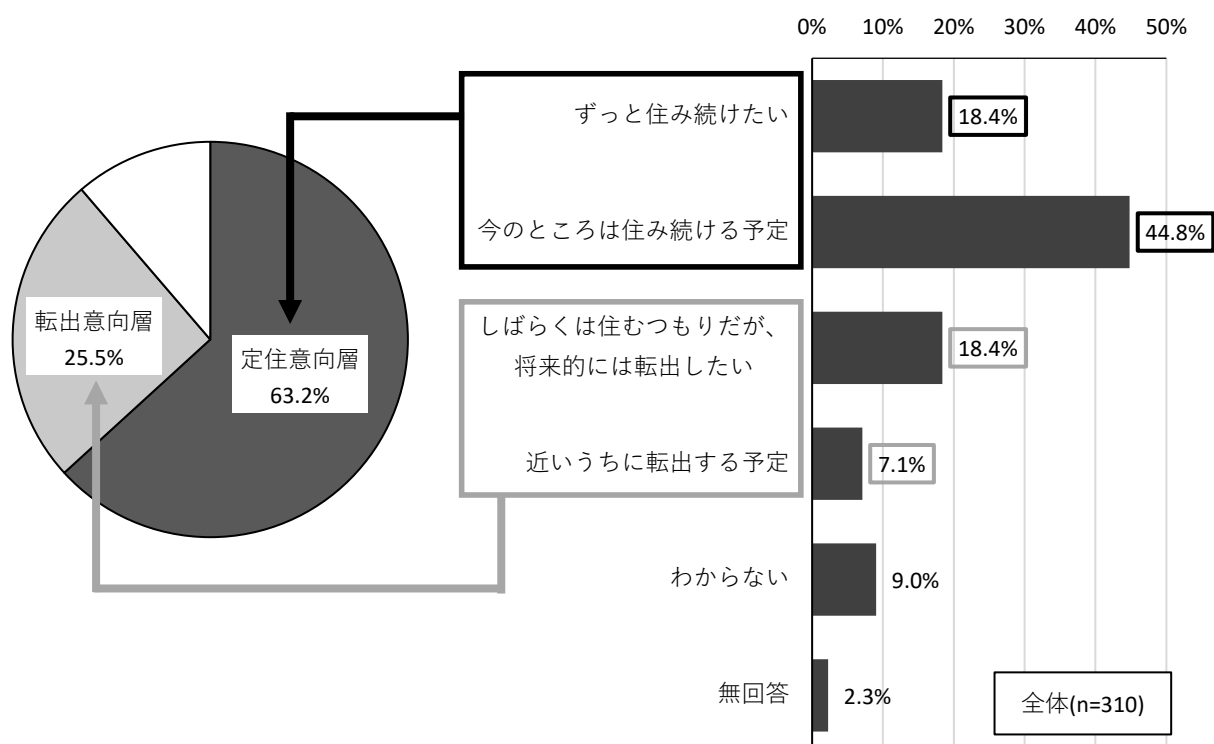
IV 男鹿市への定住に関するあなたの考えをお聞きます。

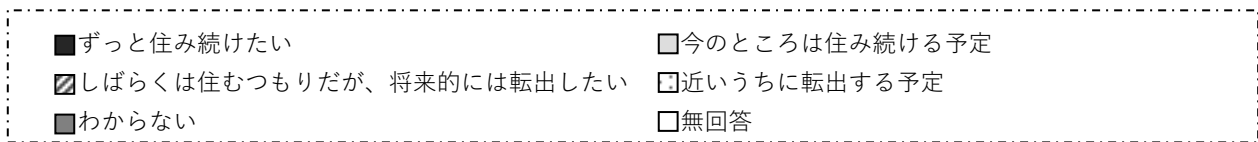
問 11 市内にお住まいの方にお聞きます。将来も男鹿市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

【全体】

全体では、「今のところは住み続ける予定」の割合が 44.8%で最も高く、次いで「ずっと住み続けたい」および「しばらくは住むつもりだが、将来的には転出したい」(以下「将来的には転出したい」) がともに 18.4%で続いている。

また、「ずっと住み続けたい」および「今のところは住み続ける予定」を合わせた割合(以下『定住意向層』)は 63.2%であり、「将来的には転出したい」および「近いうちに転出する予定」を合わせた割合(以下『転出意向層』)の 25.5%よりも 37.7pt 高くなっている。

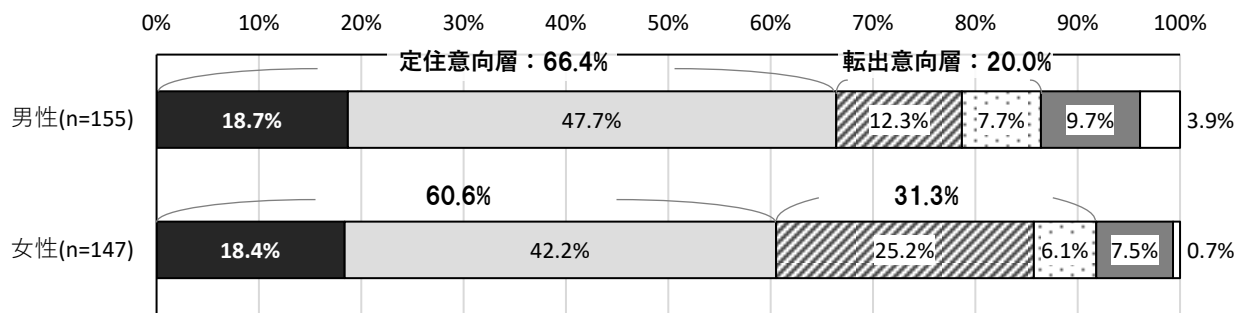




【性別】

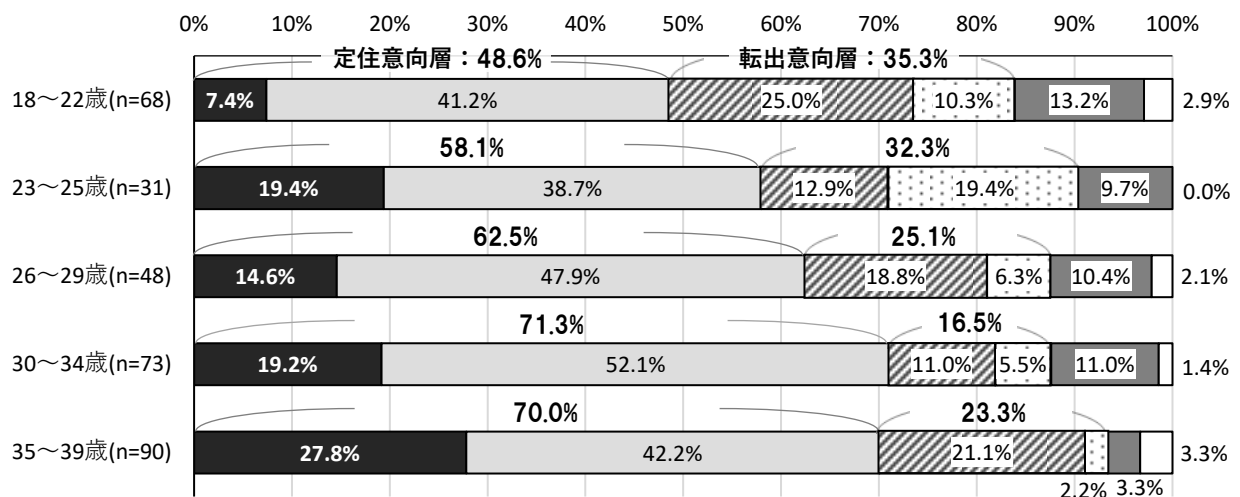
性別にみると、『定住意向層』は、男性では66.4%、女性では60.6%であり、男女ともに『定住意向層』の割合が『転出意向層』を上回っている。

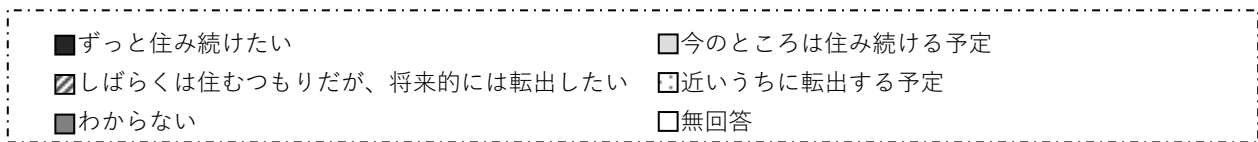
また、『転出意向層』については、女性（31.3%）が男性（20.0%）より11.3pt高い割合となっており、女性のほうが転出意向が高い傾向にある。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても『定住意向層』が『転出意向層』の割合を上回っている。また、年齢が上がるにつれて『定住意向層』の割合が高い傾向がみられ、**20代以下**では4～6割台である一方、**30代**では7割台となっている。**20歳前後**の年代では将来の転出を視野に入れている割合が比較的多い一方、**30代**では定住意向が高くなっている。





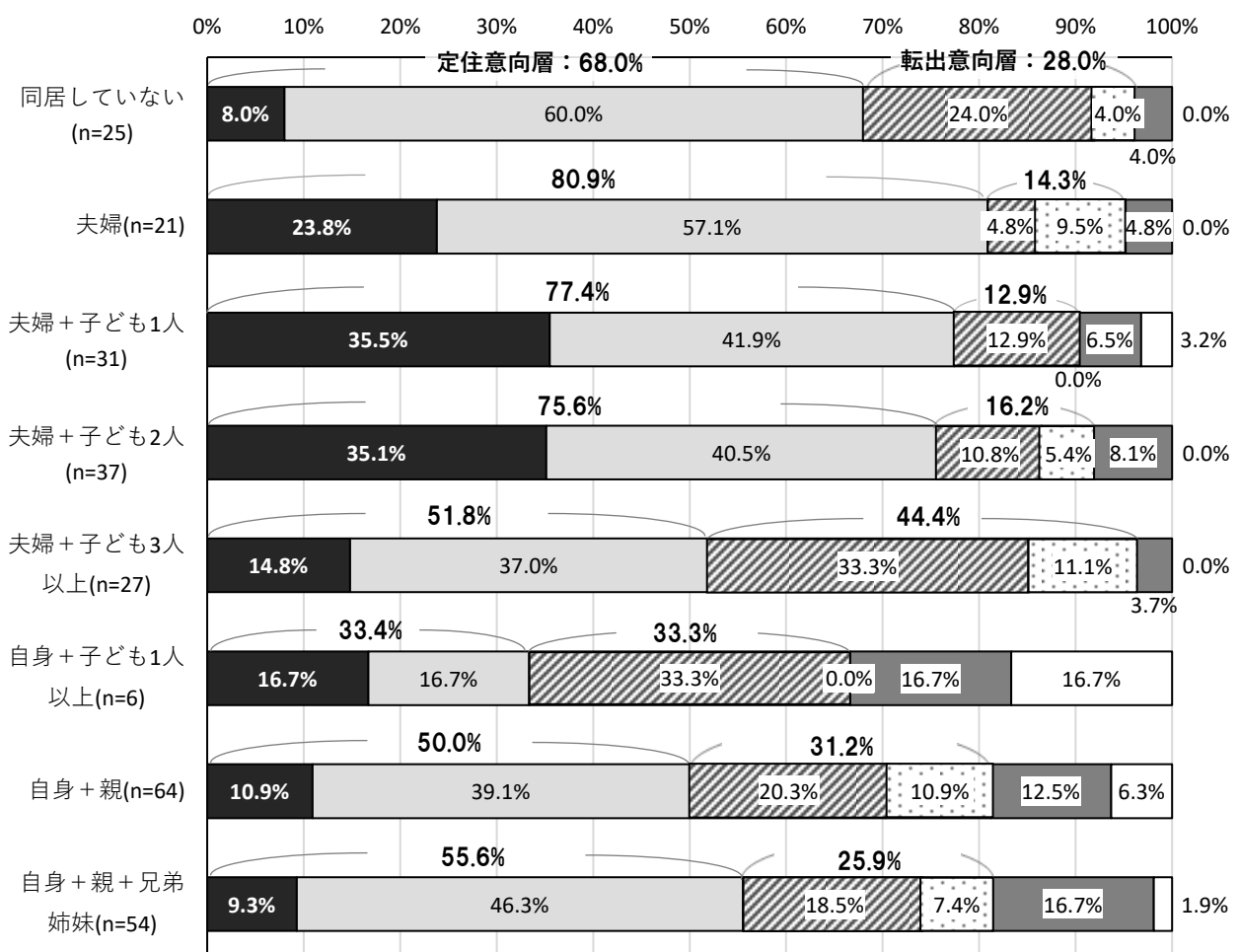
【家族構成別】

家族構成別にみると、**同居していない（単身世帯）**では、「今のところは住み続ける予定」が60.0%で最も高く、次いで「将来的には転出したい」が24.0%で続いている。『定住意向層』は68.0%、『転出意向層』は28.0%となっている。

夫婦のみの世帯では、「今のところは住み続ける予定」が57.1%で最も高く、次いで「ずっと住み続けたい」が23.8%で続いている。『定住意向層』は80.9%、『転出意向層』は14.3%となっており、定住意向が比較的高くなっている。

夫婦と子どもがいる世帯では、子どもが1人および2人の世帯では、「今のところは住み続ける予定」の割合が4割台、「ずっと住み続けたい」が3割台で続き、いずれも『定住意向層』が7割台となっている。一方、子どもが3人以上の世帯では、「今のところは住み続ける予定」が37.0%で最も高いものの、「将来的には転出したい」が33.3%と同程度であり、『定住意向層』51.8%、『転出意向層』44.4%と、定住と転出の意向がほぼ同程度となっており、子どもの人数に応じて将来の居住地に関する意向に変化がある可能性が考えられる。

自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では、「今のところは住み続ける予定」が4割前後で最も多く、次いで「将来的には転出したい」が2割前後となっている。また、「わからない」の回答も1割台となっており、将来の居住意向が明確でない層が一定程度存在すると考えられる。



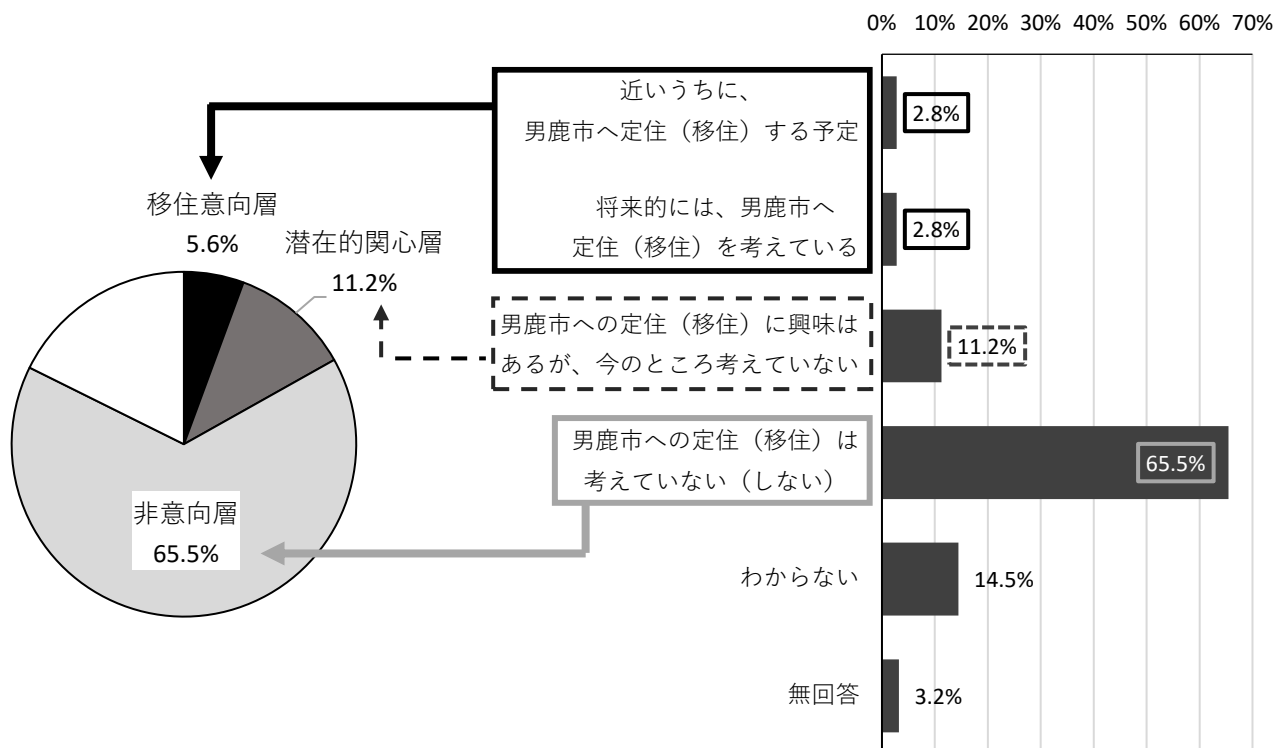
問 12 市外にお住まいの方へお聞きします。今後、男鹿市へ定住する考えはありますか。(○は1つ)

【全体】

全体では、「男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）」の割合が 65.5%で最も高くなっている。

一方、「近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定」および「将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている」を合わせた割合（以下『移住意向層』）は 5.6%と 1 割以下にとどまっている。

「男鹿市への定住（移住）に興味はあるが、今のところ考えていない」と回答した割合（以下『潜在的関心層』）は 11.2%となっており、潜在的関心層については、今後の状況や情報の受け取り方により、意向が変わる余地があると考えられる。

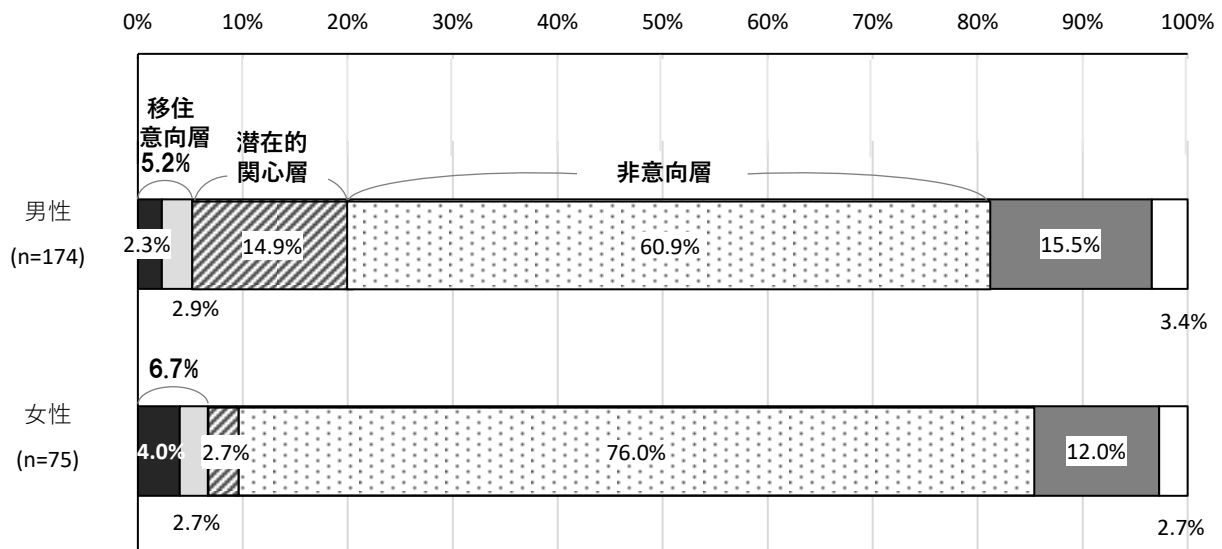


- 近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定
- 将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている
- ▨ 男鹿市への定住（移住）に興味はあるが、今のところ考えていない
- 男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）
- わからない
- 無回答

【性別】

性別にみると、男女ともに「男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）」の割合が最も高く（男性：60.9%、女性：76.0%）、女性が男性より 15.1pt 高くなっている。一方、『移住意向層』は、男女ともに 1 割未満にとどまっている。

また、『潜在的関心層』は、男性では 14.9%、女性では 2.7%となっており、男性が女性より 12.2pt 高くなっている。現時点では定住を考えていないものの、一定程度の関心を持つ男性が相対的に多いと考えられる。

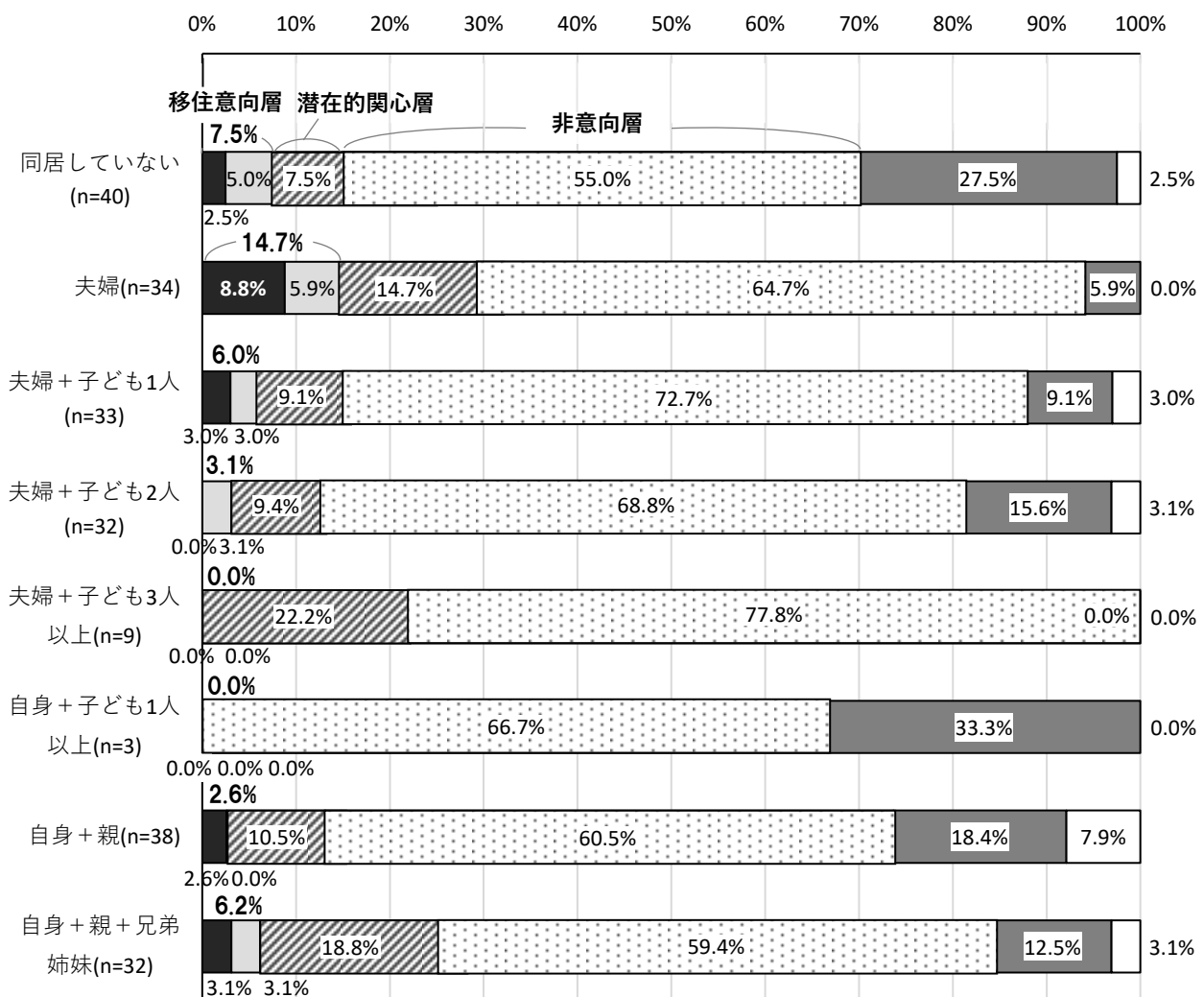


- 近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定
- 将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている
- ▨ 男鹿市への定住（移住）に興味はあるが、今のところ考えていない
- 男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）
- わからない
- 無回答

【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの世帯においても『非意向層』の割合が高く、5～7割台となっている。一方、『移住意向層』の割合は、**夫婦のみの世帯**では1割台となっているものの、そのほかの世帯はいずれも1割未満にとどまっている。

また、『潜在的関心層』の割合は、**夫婦+子ども3人以上の世帯**では2割台、**夫婦のみの世帯**と**自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯**とでは1割台、その他の世帯ではいずれも1割未満となっている。

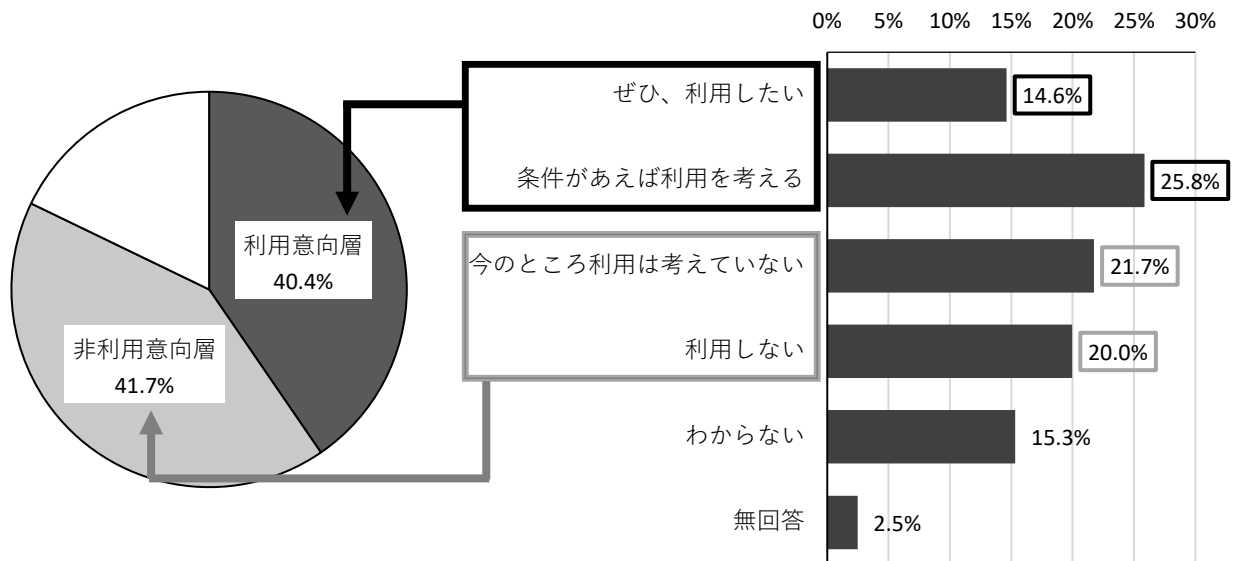


問 13 今後、男鹿市に若者・子育て世帯向け住宅が整備された場合、利用する考えはありますか。(○は1つ)

【全体】

全体では、「条件があれば利用を考える」の割合が 25.8%で最も高く、次いで「今のところ利用は考えていない」が 21.7%、「利用しない」が 20.0%で続いている。

「ぜひ、利用したい」および「条件があれば利用を考える」を合わせた割合（以下『利用意向層』）は 40.4%であり、「今のところ利用は考えていない」および「利用しない」を合わせた割合（以下『非利用意向層』）は 41.7%となっている。

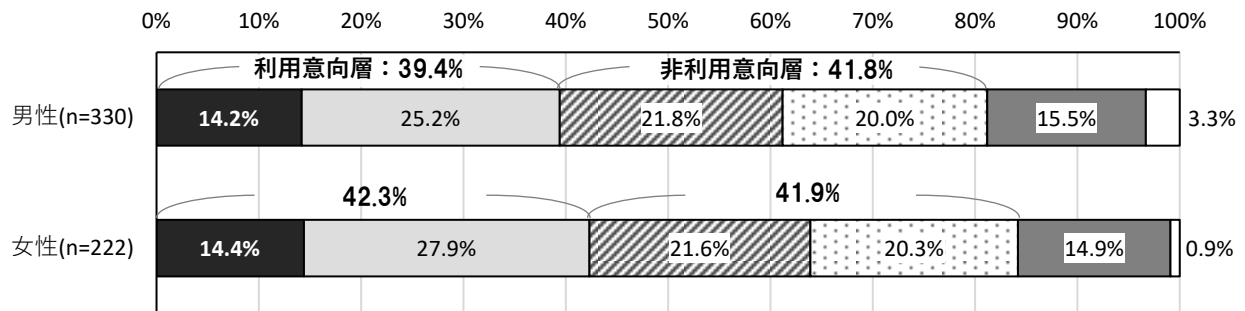




【性別】

性別にみると、男女ともに「条件があれば利用を考える」の割合が最も高く、次いで「今のところ利用は考えていない」、「利用しない」の順で続いている。

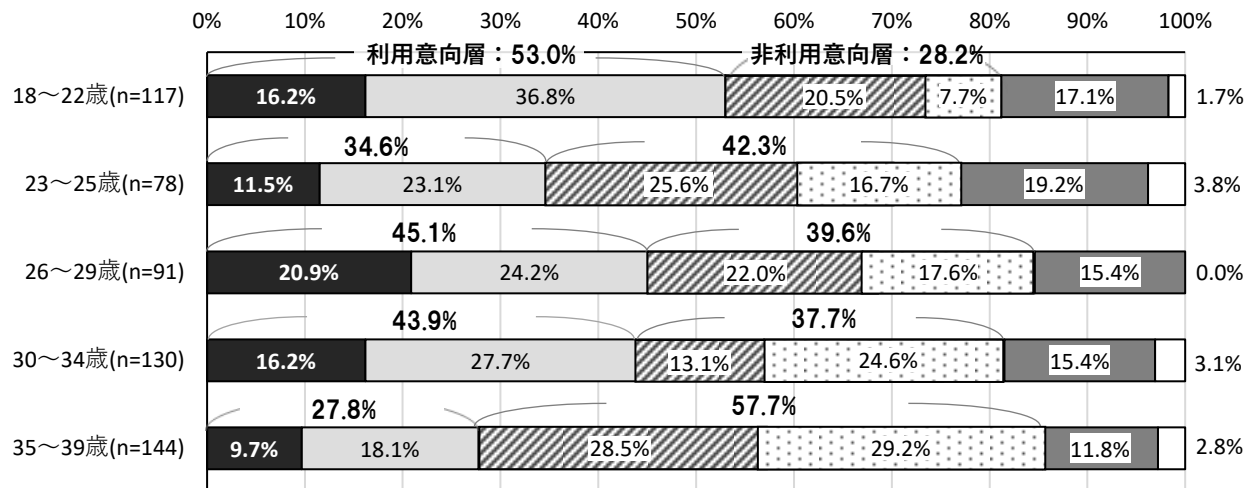
『利用意向層』は、男性では39.4%、女性では42.3%、『非利用意向層』は、男性では41.8%、女性では41.9%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、18～22歳では、『利用意向層』(53.0%)が『非利用意向層』(28.2%)を24.8pt上回っており、全年代の中で最も利用意向が高い。一方、35～39歳では、『利用意向層』(27.8%)が『非利用意向層』(57.7%)を29.9pt下回っており、相対的に利用意向が低い。

そのほかの年代では、23～25歳では『非利用意向層』のほうが高く、26～34歳では『利用意向層』がやや上回っている。

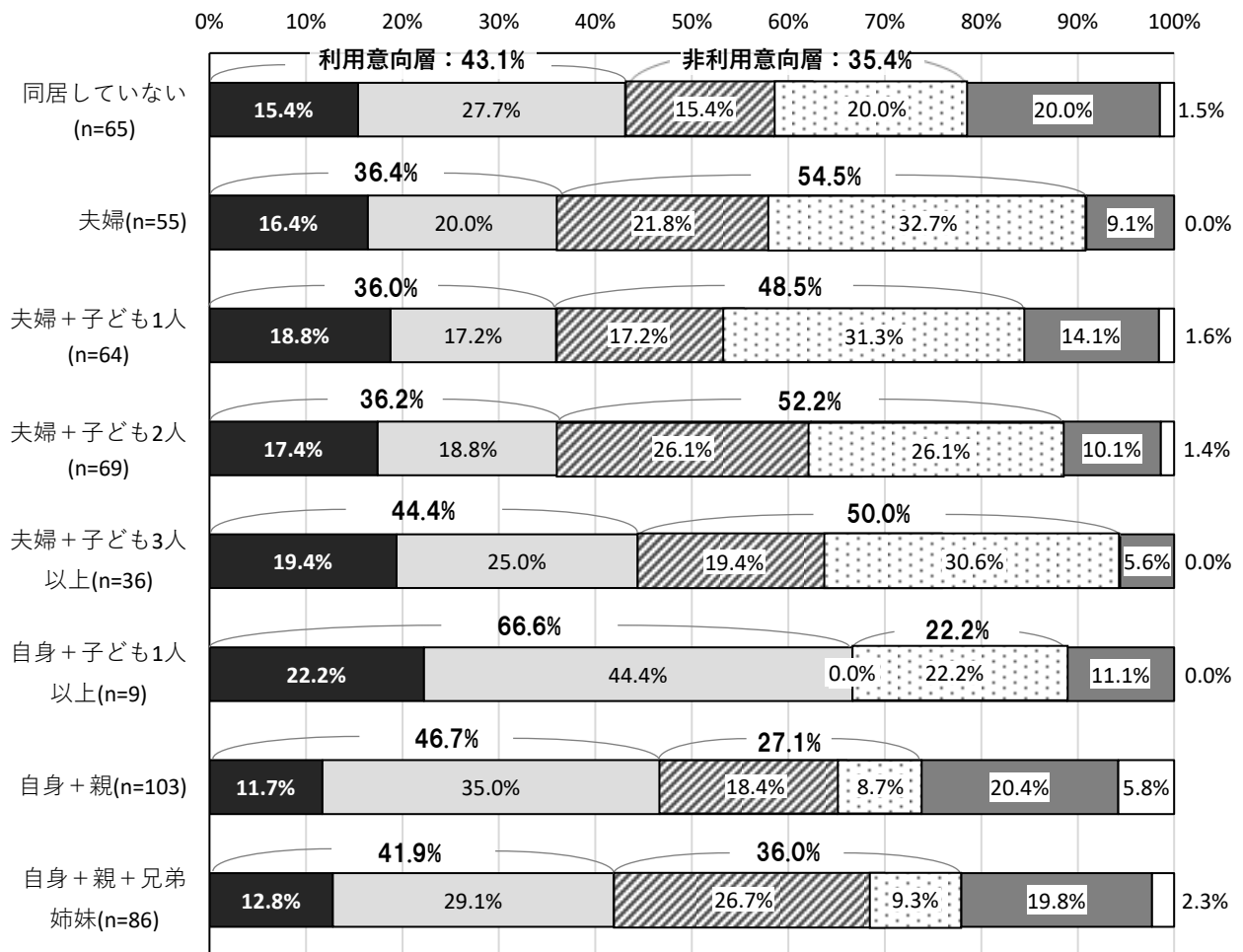




【家族構成別】

家族構成別にみると、同居していない（単身世帯）と自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯では、『利用意向層』がいずれも4割台で、『非利用意向層』を上回っている。また、「わからない」の割合が2割前後と比較的高く、将来の利用について判断が定まっていない層が一定程度存在している可能性がある。

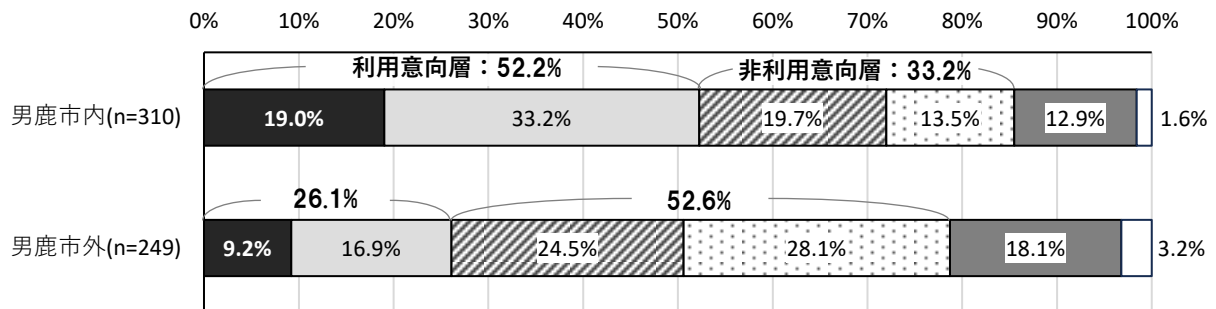
一方、夫婦のみの世帯と夫婦と子どもがいる世帯では、『非利用意向層』が5割前後を占めており、非利用を選択する割合が相対的に高い傾向がみられる。





【居住地区別】

居住地区別にみると、『利用意向層』の割合は、**市内**では52.2%、**市外**では26.1%となっている一方、『非利用意向層』の割合は、**市内**では33.2%、**市外**では52.6%となっており、市内在住者のほうが、男鹿市の若者・子育て世帯向け住宅の利用意向が高い結果となっている。市外在住者においては、事業内容や利便性に関する情報が十分に届いていない可能性や、現在の居住地からの移動・生活環境の変化に対する慎重な姿勢が影響している可能性も考えられるため、分かりやすい情報提供や、生活環境の魅力を伝える発信など、関心の喚起につながるアプローチが有効となる可能性がある。



【住みたい間取り別（問4）】

問4の住みたい間取り別にみると、**1LDK**と**2LDK**を希望する層では、『利用意向層』の割合が『非利用意向層』を上回っている。特に**1LDK**では『利用意向層』（47.8%）が『非利用意向層』（23.9%）を23.9pt上回っている。一方で、「わからない」の割合が26.1%と比較的高く、利用意向が定まっていない層も一定程度みられる。

3LDKと**4LDK**を希望する層では、『非利用意向層』が『利用意向層』を上回っている。また、希望する間取りが広がるほど、「利用しない」と回答した割合が高くなる傾向もみられる。

若者・子育て世帯向け住宅の整備にあたっては、1LDK～2LDK程度の住戸規模について一定の需要が想定される。

[住みたい間取り別順位]		問13 今後の若者・子育て世帯向け住宅の利用意向							
上位1位		ぜひ、利用 したい	条件があえ ば利用を考 える	今のところ 利用は考え ていない	利用しない	わからない	無回答	利用意向層	非利用意向 層
[全体との結果との差]									
★全体より10.0pt以上高い									
◆全体より10.0pt以上低い									
問4 住みたい 「間取り」	全体(n=561)	14.6%	25.8%	21.7%	20.0%	15.3%	2.5%	40.4%	41.7%
	ワンルーム(n=9)	◆0.0%	33.3%	◆11.1%	★33.3%	22.2%	0.0%	33.3%	44.4%
	1LDK(n=46)	15.2%	32.6%	17.4%	◆6.5%	★26.1%	2.2%	47.8%	◆23.9%
	2LDK(n=113)	15.9%	29.2%	22.1%	14.2%	17.7%	0.9%	45.1%	36.3%
	3LDK(n=185)	15.1%	22.7%	24.9%	17.8%	15.1%	4.3%	37.8%	42.7%
	4LDK(n=178)	14.6%	25.8%	19.7%	28.1%	11.2%	0.6%	40.4%	47.8%

問 14 あなたが定住を考える上で、次のA～Tの項目について、どのくらい重要だと考えますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、数字に○をつけてください。（各項目で○は1つ）

■ 必ず必要

□ どちらかといえば必要

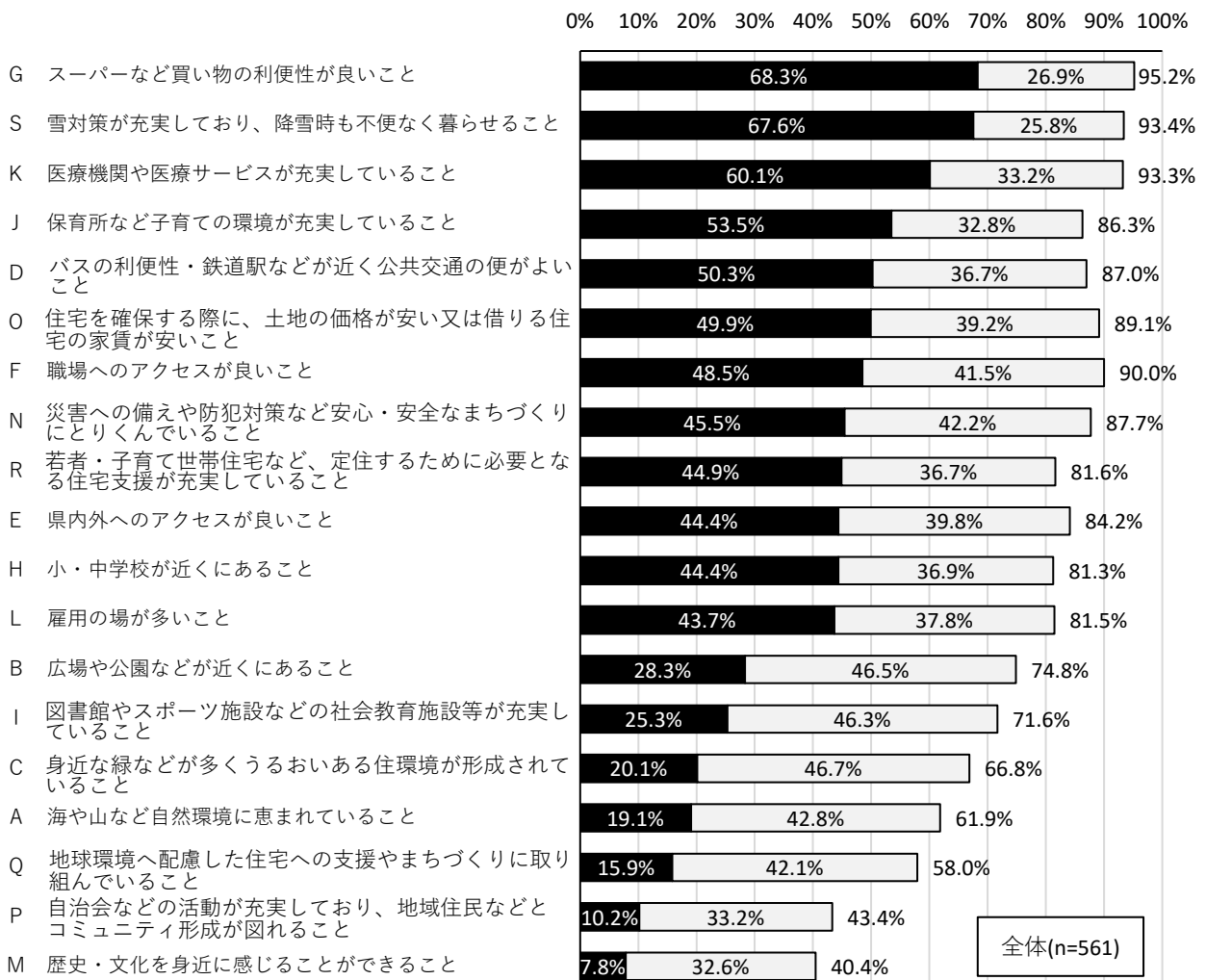
合計値（「必ず必要」＋「どちらかといえば必要」）

【全体】

「必ず必要」と回答した割合は、「G スーパーなど買い物の利便性が良いこと」（以下「G 買い物の利便性」）が68.3%で最も高く、次いで、「S 雪対策が充実しており、降雪時にも不便なく暮らせること」（以下「S 雪対策の充実」）が67.6%、「K 医療機関や医療サービスが充実していること」（以下「K 医療機関・サービスの充実」）が60.1%で続いている。

また、「必ず必要」および「どちらかといえば必要」を合わせた（以下『必要』）の割合は、これら上位の項目に加えて、「F 職場へのアクセスが良いこと」や「O 住宅を確保する際に、土地の価格が安い又は借りる住宅の家賃が安いこと」（以下「O 土地・住宅の価格の安さ」）など19項目中12項目で8割を超えている。

一方、「P 自治会などの活動が充実しており、地域住民などとコミュニティ形成が図れること」および「M 歴史・文化を身近に感じることができること」の2項目においては、『必要』の割合が5割を下回っており、他の項目と比較すると整備の優先度はやや低いと考えられる。



■ 必ず必要 □ どちらかといえば必要 合計値（「必ず必要」＋「どちらかといえば必要」）

【性別】

性別に「必ず必要」と回答した割合の上位3項目をみると、男女ともに「G 買い物の利便性」が最も高く、次いで「S 雪対策の充実」、「K 医療機関・サービスの充実」の順となっている。

男女で「必ず必要」に10.0pt以上の差がある項目として、「G 買い物の利便性」および「N 災害への備えや防犯対策など安心・安全なまちづくりにとりくんでいること」では、女性が男性を11.2pt上回っている。また、『必要』の割合について、19項目中14項目で女性が男性より割合が高くなっており、女性のほうが多くの項目を重要ととらえている傾向がみられる。



【家族構成別】

家族構成別に「必ず必要」と回答した割合をみると、同居していない（単身世帯）と自身と親（＋兄弟姉妹）がいる世帯では、全体の結果と同様、「G 買い物の利便性」、「S 雪対策の充実」、「K 医療機関や医療サービスが充実していること」の3項目が上位3位を占めている。

一方、夫婦のみの世帯では、「O 土地・住宅の価格の安さ」が上位2位となっており、持ち家取得への関心が高まるライフステージであることから、住宅コストへの関心の高さがうかがえる。

また、夫婦と子どもがいる世帯では、全体と同様の上位3項目に加え、「B 広場や公園などが近くにあること」や「H 小・中学校が近くにあること」、「J 保育所など子育ての環境が充実していること」など、子育て関連の項目の割合が高い傾向がみられ、子どもを取り巻く生活環境を重視する傾向がうかがえる。

「必ず必要」の割合 [家族構成別順位] 上位1位 上位2位 上位3位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S		
	海や山など自然環境に恵まれていること	広場や公園などが近くにあること	が形成されていること	身近な緑などが多くあるおいある住環境	交通の便がよいこと	バスの利便性・鉄道駅などが近く公共	県内外へのアクセスが良いこと	職場へのアクセスが良いこと	スーパーなど買い物の利便性が良いこと	小・中学校が近くにあること	図書館やスポーツ施設などの社会教育施設等が充実していること	保育所など子育ての環境が充実していること	医療機関や医療サービスが充実していること	雇用が多いこと	歴史・文化を身近に感じることができること	災害への備えや防犯対策など安心・安全なまちづくりにとりにくんでいること	住宅を確保する際に、土地の価格が安い又は借りる住宅の家賃が安いこと	自治会などの活動が充実しており、地域住民などとコミュニケーション形成が図れること	地球環境へ配慮した住宅への支援やまちづくりに取り組んでいること	若者・子育て世帯住宅など、定住するために必要となる住宅支援が充実していること	不便なく暮らせること、降雪時
	全体(n=561)	19.1%	28.3%	20.1%	50.3%	44.4%	48.5%	68.3%	44.4%	25.3%	53.5%	60.1%	43.7%	7.8%	45.5%	49.9%	10.2%	15.9%	44.9%	67.6%	
	同居していない(n=65)	23.1%	26.2%	29.2%	52.3%	50.8%	52.3%	70.8%	38.5%	27.7%	55.4%	66.2%	43.1%	9.2%	38.5%	55.4%	10.8%	18.5%	47.7%	67.7%	
	夫婦(n=55)	20.0%	23.6%	20.0%	43.6%	38.2%	◆38.2%	◆54.5%	43.6%	18.2%	50.9%	50.9%	38.2%	1.8%	40.0%	56.4%	9.1%	9.1%	43.6%	63.6%	
夫婦＋子ども1人(n=64)	14.1%	★43.8%	25.0%	56.3%	46.9%	50.0%	70.3%	★60.9%	28.1%	★67.2%	59.4%	43.8%	9.4%	48.4%	50.0%	12.5%	14.1%	51.6%	70.3%		
夫婦＋子ども2人(n=69)	14.5%	36.2%	18.8%	50.7%	40.6%	43.5%	65.2%	53.6%	24.6%	58.0%	55.1%	◆29.0%	0.0%	◆33.3%	◆33.3%	4.3%	◆4.3%	39.1%	58.0%		
夫婦＋子ども3人以上(n=36)	22.2%	★38.9%	22.2%	47.2%	41.7%	50.0%	★80.6%	★69.4%	33.3%	★69.4%	66.7%	★58.3%	2.8%	44.4%	★63.9%	11.1%	25.0%	★55.6%	61.1%		
自身＋子ども1人以上(n=9)	22.2%	22.2%	11.1%	◆0.0%	◆11.1%	◆33.3%	◆44.4%	◆33.3%	22.2%	★77.8%	55.6%	★55.6%	0.0%	◆33.3%	★66.7%	★22.2%	11.1%	★66.7%	★88.9%		
自身＋親(n=103)	22.3%	20.4%	18.4%	55.3%	★57.3%	54.4%	72.8%	40.8%	29.1%	47.6%	66.0%	★58.3%	13.6%	55.3%	51.5%	12.6%	24.3%	43.7%	72.8%		
自身＋親＋兄弟姉妹(n=86)	22.1%	23.3%	19.8%	48.8%	43.0%	45.3%	62.8%	◆31.4%	22.1%	◆43.0%	55.8%	38.4%	12.8%	48.8%	46.5%	8.1%	15.1%	36.0%	68.6%		

V 男鹿市の住宅施策についてお聞きします

問 15 子育て世帯等住まいづくり応援事業を知っていましたか。(○は1つ)

※子育て世帯等住まいづくり応援事業とは

子育て世帯および若者夫婦世帯の定住促進と経済的負担軽減を目的に新築住宅取得に係る経費の一部を助成し、子育てしやすい住まいづくりを応援するため補助金を交付

補助金額は対象住宅の新築又は購入に要する費用に対して定額 100 万円

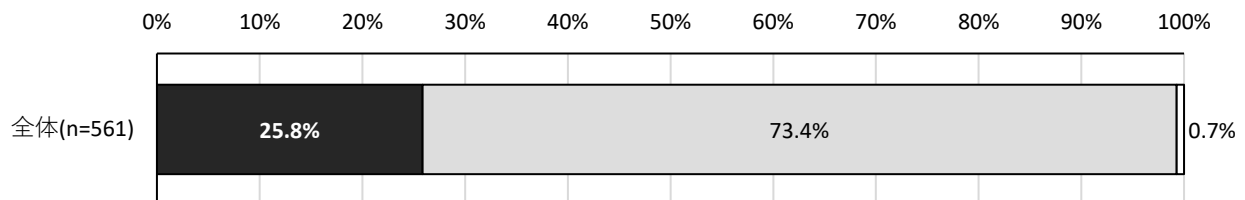
■知っている

□知らなかった

□無回答

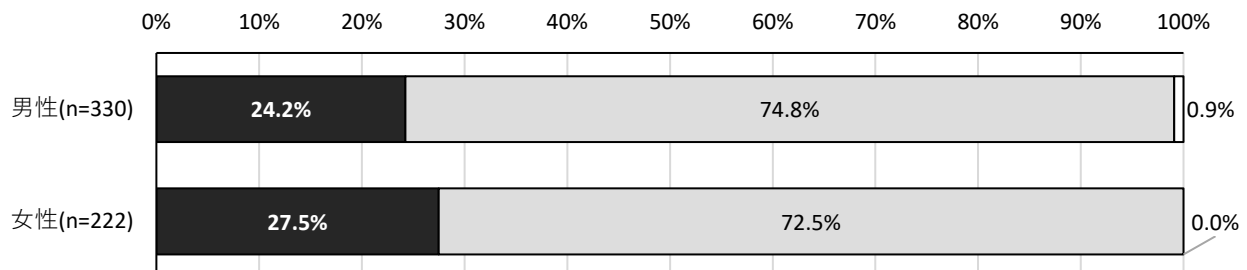
【全体】

全体では、「知っている」の割合は 25.8%、「知らなかった」は 73.4%となっているおり、回答者の 7 割が知らない状況となっている。



【性別】

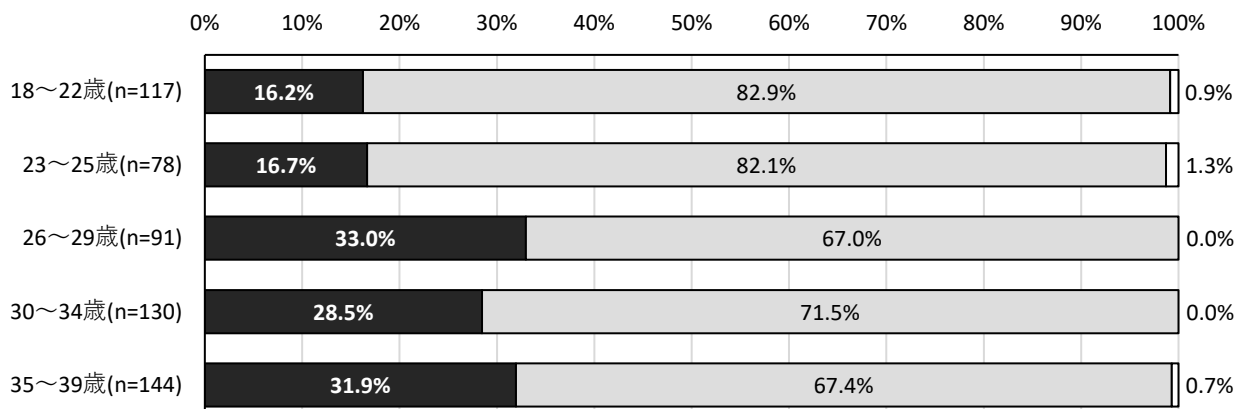
性別にみると、男女ともに「知らなかった」の割合は 7 割を超え、「知っている」を上回っている。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢でも「知らなかった」のほうが高くなっている。

「知っている」の割合は、18～25 歳では 1 割台にとどまっている一方、26～39 歳では 3 割前後となっており、年齢が高い層ほど認知度が相対的に高い傾向にある。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの世帯でも「知らなかった」の割合が高くなっている。

「知っている」の割合は、**夫婦と子どもがいる世帯**ではいずれも3割～4割台となっており、全体と比べてやや高い傾向にある一方、**自身と親（+兄弟姉妹）がいる世帯**では、1割台にとどまり、全体の割合よりも10.0pt以上低い割合となっている。

子どもがいる世帯で認知度が相対的に高いのは、住宅取得や子育て支援に関する情報に触れる機会が比較的多いためと考えられ、一方、親と同居する世帯では事業そのものを知る機会が少ない可能性が考えられる。

[家族構成別順位] 上位1位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	知っている	知らなかった	無回答
全体(n=561)	25.8%	73.4%	0.7%
同居していない(n=65)	27.7%	72.3%	0.0%
夫婦(n=55)	30.9%	69.1%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=64)	★39.1%	◆60.9%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	★40.6%	◆59.4%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	33.3%	63.9%	2.8%
自身+子ども1人以上(n=9)	★44.4%	◆55.6%	0.0%
自身+親(n=103)	◆14.6%	★84.5%	1.0%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	◆10.5%	★88.4%	1.2%

【移住意向別（問12）】

問12の市外在住者の移住意向別に「知っている」の割合をみると、「近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定」では57.1%※、「将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている」では42.9%※、「男鹿市への定住（移住）に興味はあるが、今のところ考えていない」では32.1%、「男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）」では16.6%となっており、定住意向の強さに応じて事業の認知割合が段階的に低下する傾向がみられる。

事業の認知が定住意向の形成に一定の関連を持つ可能性があり、特に『潜在的関心層』を中心に、情報提供や広報の工夫により関心が高まる余地があると考えられる。

※「近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定」および「将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている」は回答数(n数)が少ないため、割合は参考値として取り扱う必要がある。

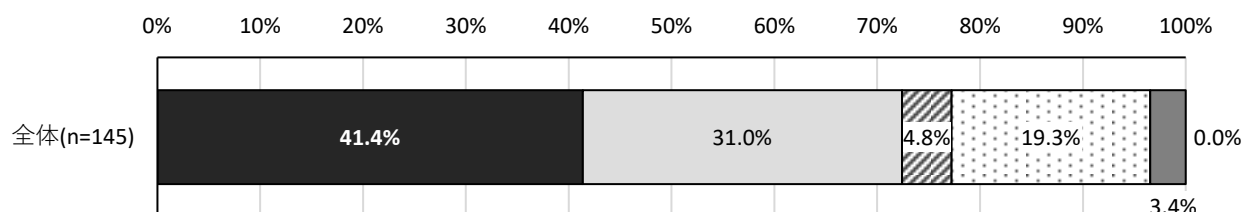
[男鹿市への定住意向別順位] 上位1位 [全体との結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い		問15 子育て世帯等住まいづくり応援事業の認知		
		知っている	知らなかった	無回答
問12 市外在住者の、男鹿市へ定住意向	全体(n=561)	25.8%	73.4%	0.7%
	近いうちに、男鹿市へ定住（移住）する予定(n=7)	★57.1%	◆42.9%	0.0%
	将来的には、男鹿市へ定住（移住）を考えている(n=7)	★42.9%	◆57.1%	0.0%
	男鹿市への定住（移住）に興味はあるが、今のところ考えていない(n=28)	32.1%	67.9%	0.0%
	男鹿市への定住（移住）は考えていない（しない）(n=153)	16.6%	82.8%	0.6%
	わからない(n=36)	19.4%	80.6%	0.0%

「知っている」と答えた方は、どこで知りましたか。(〇は1つ)

■ 広報 □ ホームページ ▨ ハウスメーカー等の紹介 ▤ 知人から ■ その他 □ 無回答

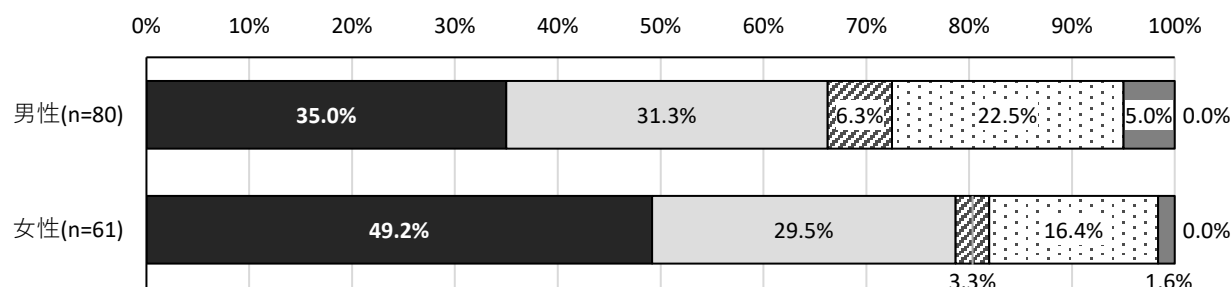
【全体】

全体では、「広報」の割合が41.4%で最も高く、次いで「ホームページ」が31.0%、「知人から」が19.3%で続いている。



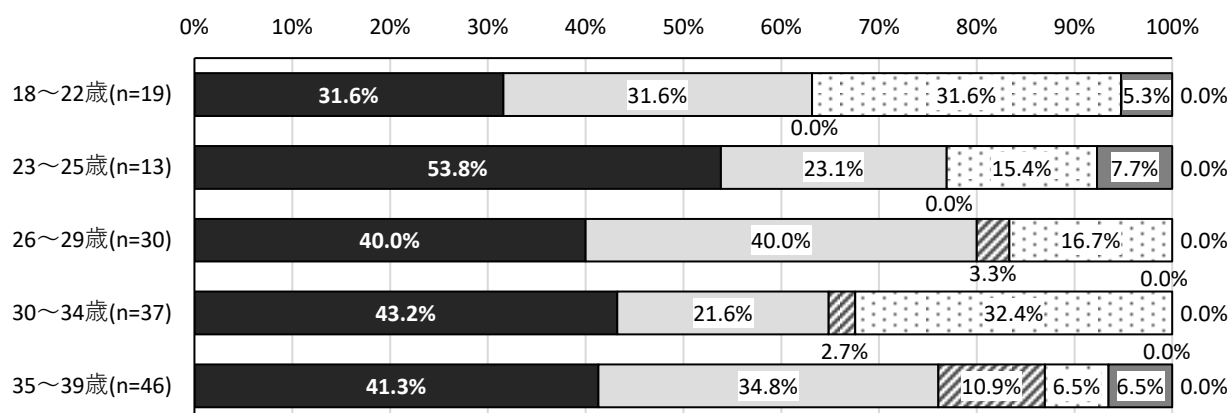
【性別】

性別にみると、男女ともに「広報」の割合が最も高く（男性：35.0%、女性：49.2%）、次いで「ホームページ」（男性：31.3%、女性：29.5%）、「知人から」（男性：22.5%、女性：16.4%）の順で続いている。「広報」の割合については、女性が男性よりも14.2pt 高い割合となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢でも「広報」の割合が最も高くなっているほか、18～22歳では「ホームページ」および「知人から」、26～29歳では「ホームページ」が同率で1番高い割合となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、同居していない（単身世帯）と夫婦のみの世帯では、「ホームページ」の割合が最も高くなっている。

一方、夫婦と子どもがいる世帯では、「広報」が最も高く、子どもの人数が増えるほど割合が高くなっている。

また、自身と親がいる世帯では「知人から」、兄弟姉妹も同居している世帯では「広報」が最も高い割合となっている。

単身世帯や夫婦のみの世帯では、インターネットを通じて情報に触れる機会が相対的に多い可能性がある一方、夫婦と子どもがいる世帯では、インターネットに加えて生活情報として広報媒体に触れる機会が比較的多く、家族構成によって触れる情報源が異なる可能性がある。

[家族構成別順位] 上位1位 [全体の結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い	広報	ホームページ	ハウスメーカー等の紹介	知人から	その他	無回答
全体(n=145)	41.4%	31.0%	4.8%	19.3%	3.4%	0.0%
同居していない(n=18)	33.3%	38.9%	0.0%	16.7%	11.1%	0.0%
夫婦(n=17)	◆23.5%	★47.1%	5.9%	23.5%	0.0%	0.0%
夫婦+子ども1人(n=25)	36.0%	36.0%	12.0%	16.0%	0.0%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=28)	42.9%	32.1%	7.1%	14.3%	3.6%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=12)	50.0%	◆16.7%	8.3%	25.0%	0.0%	0.0%
自身+子ども1人以上(n=4)	◆25.0%	★50.0%	0.0%	◆0.0%	★25.0%	0.0%
自身+親(n=15)	33.3%	◆20.0%	0.0%	★40.0%	6.7%	0.0%
自身+親+兄弟姉妹(n=9)	★77.8%	22.2%	0.0%	◆0.0%	0.0%	0.0%

【その他内容】（一部意見を抜粋）

属性 (性別／年齢／家族構成／お住いの地域)	その他内容
男性／35～39歳／夫婦+子ども2人／市外	市役所への企業向けチラシ
男性／35～39歳／同居していない／市外	会社の公示
女性／18～22歳／自身+親／市内	テレビ

問 16 子育て世帯等住まいづくり応援事業を利用し男鹿市に家を建てたいと思いますか。(○は1つ)

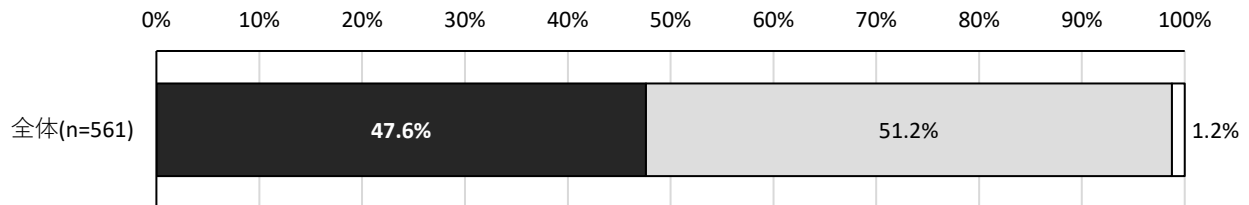
■ 思う

■ 思わない

□ 無回答

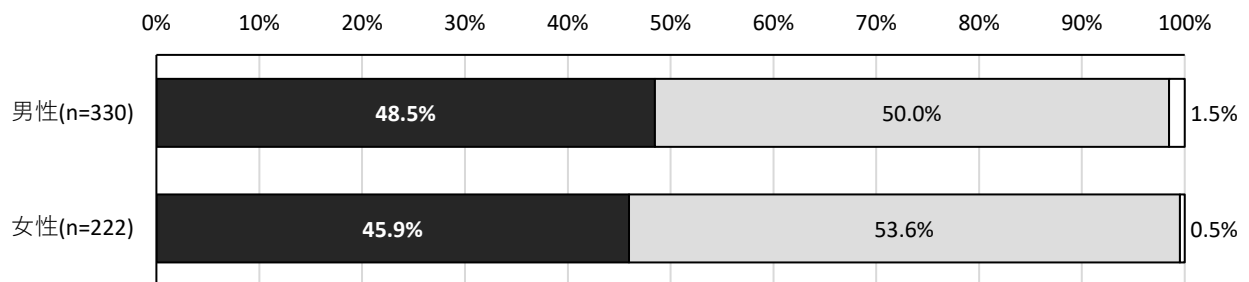
【全体】

全体では、「思う」の割合が47.6%、「思わない」が51.2%となっている。



【性別】

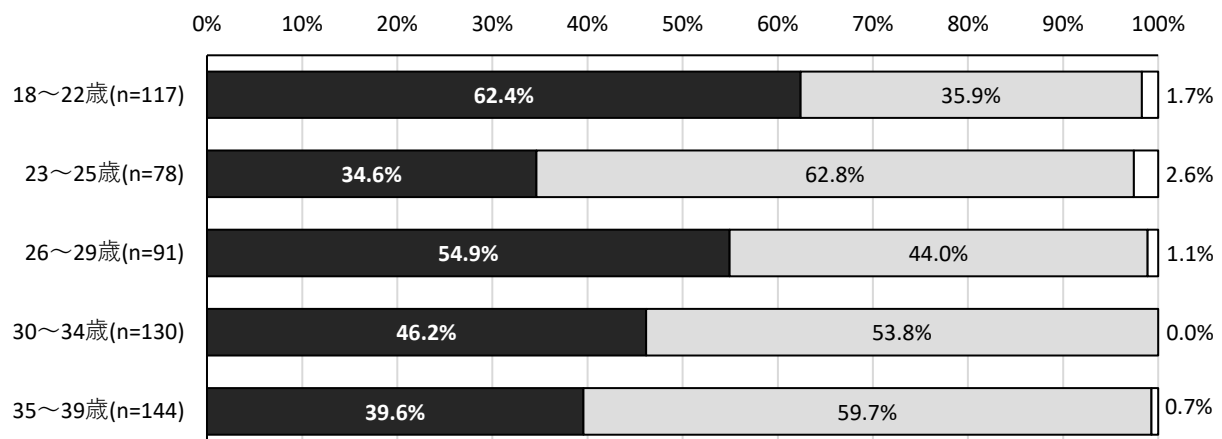
性別にみると、男女ともに「思う」の割合は4割台となっており、「思わない」をわずかに下回っている。

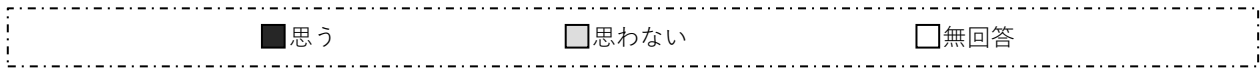


【年齢別】

年齢別にみると、18～22歳および26～29歳では「思う」の割合が半数を超えている一方、23～25歳および30～39歳では「思わない」の割合のほうが高くなっている。

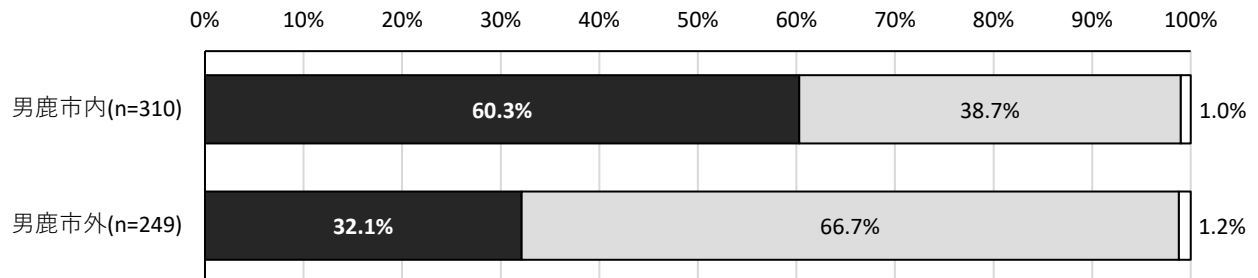
「思わない」と回答した理由をみると、23～25歳では「秋田市のほうが便利」、「男鹿に遊ぶ場所がない」等の生活利便性や娯楽面での魅力を求める意識が背景にある一方で、30～39歳では「すでに持ち家がある」、「結婚や子育ての予定がない」等、現在の生活基盤が既に安定していることやライフステージに基づく理由が多くみられる。





【居住地区別】

居住地区別にみると、「思う」の割合は、**市内**では6割を超えている一方、**市外**では3割台にとどまっており、市内のほうが市外よりも 28.2pt 高く、市内在住者のほうが市内での住宅取得に前向きな傾向にあると考えられる。



【家族構成別】

家族構成別にみると、**夫婦+子ども2人**および**自身+親+兄弟姉妹がいる**世帯では「思う」の割合のほうが高く、そのほかの世帯では、いずれも「思わない」の割合のほうが高くなっている。

また、**自身+親+兄弟姉妹がいる世帯**においては、「思う」の割合が全体より 10.0pt 以上高く、比較的前向きな回答が多い層と考えられる。

[家族構成別順位] 上位1位	[全体的結果との差]		
	★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い		
	思う	思わない	無回答
全体(n=561)	47.6%	51.2%	1.2%
同居していない(n=65)	46.2%	52.3%	1.5%
夫婦(n=55)	47.3%	50.9%	1.8%
夫婦+子ども1人(n=64)	42.2%	57.8%	0.0%
夫婦+子ども2人(n=69)	52.2%	47.8%	0.0%
夫婦+子ども3人以上(n=36)	44.4%	52.8%	2.8%
自身+子ども1人以上(n=9)	44.4%	55.6%	0.0%
自身+親(n=103)	46.6%	52.4%	1.0%
自身+親+兄弟姉妹(n=86)	★59.3%	◆38.4%	2.3%

【事業の認知別（問15）】

問15の事業の認知別にみると、**知っている**では、「思う」が61.4%、「思わない」が37.9%となっている一方、**知らなかった**では、「思う」が43.2%、「思わない」は56.3%となっている。

事業の認知が利用意向に一定程度影響している可能性があり、広報の強化や事業内容の分かりやすい情報提供が、利用意向への関心が高める可能性があると考えられる。

[住みたい住棟タイプ別順位] 上位1位		問16 子育て世帯住まいづくり応援事業の利用意向		
[全体との結果との差] ★全体より10.0pt以上高い ◆全体より10.0pt以上低い		思う	思わない	無回答
問15 子育て世帯等	全体(n=561)	47.6%	51.2%	1.2%
住まいづくり応援事業 をの認知	知っている(n=145)	★61.4%	◆37.9%	0.7%
	知らなかった(n=412)	43.2%	56.3%	0.5%

「思わない」と答えた方はその理由を記載してください。

理由の一部を抜粋して掲載する。なお、誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

属性 〔性別／年齢 家族構成／お住いの地域〕	思わない理由
女性／35～39歳 夫婦+子ども3人以上／市内	100万円では足りないと思うから。
女性／35～39歳 夫婦+子ども2人／市外	家を買ってしまったから。（潟上）
男性／23～25歳 夫婦+子ども2人／市外	現時点では男鹿市への移住を考慮せず、応援事業を知った上でもイメージが付きにくいから
女性／26～29歳 夫婦+子ども3人以上／市内	すでに戸建に住んでいるから。新たに家を建てることも考えていない。
男性／30～34歳 夫婦+子ども1人／市内	もう既に家を建てているため
男性／26～29歳 自身+親+兄弟姉妹／市内	家を建てるきっかけがないから。
女性／23～25歳 自身+親／市外	家を建てることを考えていないから
女性／30～34歳 自身+親／市外	結婚および出産の希望がないため
男性／18～22歳 自身+親+兄弟姉妹／市外	現在は未婚であり、将来の具体的な生活を予想できないため。
女性／30～34歳 夫婦／市内	今のところ、建て替えを考えていない。新築より、リフォームを検討するかもしれない。
男性／18～22歳 自身+親+兄弟姉妹／市外	最近家を建てたばかりだから
無回答／26～29歳 その他／市内	条件に該当しないため
男性／23～25歳 その他／市外	男鹿市への定住を考えていないため

VI 若者・子育て世帯向け住宅に関するご意見・ご提案

若者・子育て世帯住宅についてご意見・ご提案などをご自由にご記入ください。

主な自由意見

一部を抜粋して掲載する。なお、誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

属性 〔性別／年齢 家族構成／お住いの地域〕	若者・子育て世帯向け住宅に関するご意見・ご提案
男性／30～34歳 夫婦+子ども1人／市外	良い建物があっても、緊急時に子どもや家族を診てくれる病院が無いと、定住は難しいと思う。
男性／18～22歳 夫婦+子ども2人／市内	平屋がいいです。平屋で大きな家に住みたいです。自然豊かでとてもいい街なのでできることなら住みたいです。土地代が安ければいいなというがんばりです。
女性／26～29歳 夫婦+子ども1人／市内	男鹿市へ移住してくる際、アパート自体が少なく、空きを探すのが難しかった。当時空いていた現在のアパートで妥協して住んでいたが（当時は子なし）、子が産まれてから不便を感じるが多くなった（追い焚きがないため子を温かい湯にいれるのに工夫が必要、家の中が寒い、設備が古い（換気扇、蛇口、カーテンレールが落ちてくる等））。しかし市内で引っ越す条件の良い物件もなく仕方なしに住んでいる現状。住居に困っているの、早急に子育て世代向けの住宅を建設していただきたいです。
女性／35～39歳 夫婦+子ども2人／市内	住宅に関して詳しく調べようと思って調べないと情報が出てこないのがもったいないと思う。行政がいろいろなサービスのメニューを揃えていても、住民が情報を得やすい状況にないと使いたくても使えない。
女性／35～39歳 夫婦+子ども3人以上／市内	公園を増やして欲しい。高校生の子育てがしやすいようにして欲しい。
女性／35～39歳 その他／市内	子どもが夜間体調不良となった際に対応してもらえる医療機関がなく秋田市まで通わなければいけなかったのもとても大変だった児童館もなく子どもの遊び場が少ない住宅のみならず周辺環境の整備も行わなければ子育て世帯の定住は図れないのではないかと感じます
女性／30～34歳 同居していない／市内	子育ても大事ですが、単身で住むのに適した家が少ないと思います。単身でもカップルや夫婦でも住みやすく、コミュニティが生まれやすい、団地のような住宅が欲しいです。
男性／30～34歳 夫婦／市内	子育て世帯等住まいづくり応援事業は所得関係なくすべての子育て世代に対応してほしい。
男性／35～39歳 夫婦+子ども1人／市内	説明会や相談できるところを広報してほしい

属性 〔性別／年齢 家族構成／お住いの地域〕	若者・子育て世帯向け住宅に関するご意見・ご提案
女性／35～39歳 夫婦+子ども1人／市内	小児救急の医療体制やバースデーなどの子供用品専門店があればよい
男性／35～39歳 自身+親／市内	とにかくバスの本数が少なすぎる。夕方～夜に秋田方面から電車で帰ってきても、駅から家までのバスが終わっているので市外に勤め先がある人は住むには不便。
男性／30～34歳 自身+親+兄弟姉妹／市内	若者、子育て世帯住宅に関しては、ぜひ空き家の利用・活用も積極的に行ってほしいと思います。築年数的に活用が難しいケースも多いとは思いますが、リフォームすることで改善可能だと思いますし、一から家を建てるよりも経済的に優しいと思います。素人目線の意見で恐縮ですが、ご検討よろしく願いいたします。
女性／26～29歳 その他／市内	男鹿市の市営住宅の入居資格について、収入要件の項目を考え直してほしい。もう少し上限の幅を広げてほしい。よろしく願いします。
女性／35～39歳 その他／市内	子供が天候に関係なく遊べる施設（屋内）やプール等があれば、子育て世代が集まりやすくなると思う。男鹿駅前の公園は雨や雪では遊べず、夏もすべり台が高温になり遊べなくなっている。
男性／30～34歳 夫婦+子ども1人／市外	子育て世帯は他住人への音の問題など気にするので戸建タイプの貸家が充実していればよいと思う。
女性／18～22歳 自身+親+兄弟姉妹／市外	若い世代の夫婦だけでなく単身者向けにも支援をして欲しいです。そしたら移住者も増えるのではないのでしょうか。実際に1人～2人用の新築マンションかアパートが出来たら入居したいです。そのマンションやアパート専用のゴミ捨て場があるとさらにいいと思います。
女性／30～34歳 その他／市内	船川地区にも市営住宅（新しい）のを建ててほしい 店の他にもコインランドリーやクリーニングを近場にほしい 室内遊具も欲しい

男鹿市「住まい」に関する若者アンケート報告書

令和 7 年 12 月

調査機関 株式会社フィデア情報総研
〒010-0923 秋田県秋田市旭北錦町 2 番 1 号
TEL 018-883-0200 FAX 018-883-0209

